



〒103-0023 東京都中央区日本橋本町 3 丁目 3 番 6 号
TEL: 03-6202-7331
FAX: 03-6202-7341
URL: <https://www.chemipaz.com/>



本レポートには、より多くの方にとって読みやすいよう、
UDフォントを使用しています。

本レポートの表紙は、社会福祉法人東京コロニーアートビリティの運営
する「アートビリティ」に登録された障がい者アートを利用しています。
(詳細：P.1)

CHEMIPAZ REPORT

ケミパズレポート

2025

くらしをこちよく、 みらいをあたらしく

報告対象範囲

CHEMIPAZおよび国内・海外のグループ会社。ただし、「当社グループ(国内)」と記載している箇所は、CHEMIPAZ、KJケミカルズ、KJケミテック、マリンナノファイバーが対象。

※文中の社名は(株)等の商号を省略することがある。

報告期間

2024年1月1日～2024年12月31日

参考にしたガイドライン等

SDGs compass、TCFD提言、環境報告ガイドライン（2018年度版）

表紙について

CHEMIPAZ REPORT 2025の表紙は、社会福祉法人東京コロニーアートビリティの運営する「アートビリティ」に登録された障がい者アートを利用しています。本年は、井手俊郎様の「カッコーの花咲く木」という作品を採用しました。中央の木の、うねりながらも広く伸びてゆく枝ぶりや葉の力強い緑色は、試行錯誤を重ねながらも着実に事業を拡大している当社グループの状況に重なります。また、木に花のようにカッコーが止まっている様子は、新たな事業展開が少しずつ花開きつつある様子を表しているようにも見えます。カッコーが木から飛び立つように、社名変更を機に輝かしい未来に飛び立てるようという願いを込めて選定しました。



フォントについて

本レポートには、より多くの方にとって読みやすいよう、UDフォントを使っています。

Contents

概要

トップメッセージ	3
CHEMIPAZグループのサステナビリティ	5
リブランディング	7
社名変更プロジェクト座談会	9
企業情報	11
財務・非財務ハイライト	12
拠点情報	13
各拠点トピックス	15

事業戦略

事業体制の変革	17
CHEMIPAZを構成する5つの事業領域	19
くらしを「パッ」と明るくし、「ずっ」と照らす、 CHEMIPAZグループの製品	21
製品トピックス	23
R&D、知的財産投資	25

社会・人材

HRポリシーの策定	27
採用活動	28
人材育成	29
働き方改革への取り組み	31
ダイバーシティの推進・社内コミュニケーション	32
CHEMIPAZ(株) 新入社員オンライン座談会	33
情報システム	35
社会貢献・社外への情報開示	36

環境・保全

TCFD提言に基づく情報開示	37
製品を通じた環境貢献	39
環境保全	41
品質	44
安全衛生	45

ガバナンス

コーポレートガバナンス	47
コンプライアンス	48
代表取締役社長、社外取締役座談会	49

トップメッセージ

CHEMIPAZ (ケミパズ) グループ、 新たな挑戦の始まり



CHEMIPAZ株式会社
代表取締役社長執行役員 菅 正道

新生CHEMIPAZの船出

24年1月、CHEMIPAZは新たな一歩を踏み出しました。DICグループからの独立と株式の非公開化により、機動的な経営判断が可能となりました。スピード感を持って事業の変革と成長を図り、成長分野への投資も積極的に行うことで将来の再上場と、その先にある企業の永続的な発展を目指します。

この独立・非上場化という船出に際して、グループ共通の価値観をミッション・ビジョン・バリュー（MVV）として再定義しました。「くらしをこちよく、みらいをあたらしく」というミッションの実現に向け、「独自性のある高い技術でニッチな領域をターゲットに、こちよくくらしと持続可能なみらいを生み出すグローバル企業となる」ことを目指す姿として定め、様々な取り組みを行っています。

取り組みの一環として、2028年を最終年度とする中期経営計画「Action2028」を24年7月に策定しました。グローバル展開の加速による成長と、成熟した市場環境の下での国内既存事業の構造改革、そして新たな事業の創出を戦略の柱に据え、定量目標として中計最終年度に連結売上500億円、営業利益率10%という高い水準を設定し、達成に向けて日々様々な取り組みを行っています。

中計達成のための具体的な施策として、事業面では事業運営組織を大括りに再編しました。

従前の製紙用薬品事業と樹脂事業を束ねてサステナブル・マテリアルズ・ビジネスユニットに、KJケミカルズ(株)の化成品事業と新綜工業股份有限公司の粘着剤事業をスペシャリティ・ケミカルズ・ビジネスユニットに統合し、各ビジネスユニット（BU）内での資源の最適配分を行いながら、併せて事業面でのシナジー創出を図っています。各BUで、MVVを体現するような環境貢献や人体の安全性に配慮した新しい製品が生まれているのは嬉しい限りです。本レポートで、当社グループの環境・社会への貢献について詳しく紹介していますので、ぜひご覧ください。

社員のエンゲージメント向上に向けて

意欲的な中計の目標に実際に取り組むのはグループの社員であり、成長の源泉は社員のエンゲージメントであるとの考えの下、「自ら考え挑戦する人材が育ち、活躍できる企業環境を整える」ため、社員が誇りをもって働き、自分の貢献を実感できる企業文化の醸成にも力を入れています。

具体的な施策として、まず人事制度の改革に着手しました。Pay for Performanceの理念に基づき、貢献や成果と処遇・

報酬の連動性を高めた制度を2025年1月にまず管理職層へ導入しました。25年中には一般職にも広げていく予定です。実際に新制度導入後、30代の管理職や女性の管理職が新たに複数誕生しています。

そのほか、次世代人材の計画的な育成プログラムの開始、社員の成長機会の創出など、様々な施策を実施しています。社員の成長機会の創出の一例として、24年に社内インターン制度をスタートさせています。参加した社員には、俯瞰的に自身の仕事や自部署の業務を捉え直す機会、更には自分自身のキャリアについて深く考える機会となり、貴重な経験になったようです。また社内人脈を増やすきっかけにもなります。実際に参加した社員、受入部署の双方から大変良いフィードバックがありました。

社名変更への思い

一連の変革の象徴として、25年4月1日に社名を「CHEMIPAZ株式会社」に変更しました。この新しい社名には、技術力に裏付けされた化学メーカー（CHEMICAL）としての誇りを持って、お客様のパートナー（PARTNER）として新しい価値を共創し（CHEMISTRY）、人々の（PERSON）日々の暮らしのあらゆる場面（A～Z）で、必要不可欠な製品を、情熱を持って（PASSION）お届けしたいという想いを込めています。

また、新しいロゴの星のマークは、旧星光PMCの良きDNAも継承したいという考えを表しています。星光PMCの前身の企業の一社である星光化学は、第二次大戦後の海運会社の復員事業として設立されましたが、その際に社名に、「船乗りが星を道標として進むように、目指すべき方向に向かって進んでいく」との想いを込めて、「星光」と命名したそうです。新しいロゴでこれからのCHEMIPAZの成長の軌跡を表していきます。

環境・社会貢献企業としての挑戦

近年、環境への取り組みやDEI推進に対するバックラッシュが一部の国や企業で見られますが、当社はMVVのミッションに掲げた「環境・社会貢献」としての使命を揺らぐことなく追求してまいります。

当社は環境保全に直接・間接に貢献する製品を製品ポートフォリオの中に数多く持っており、事業を通じた環境貢献にも注力しています。例えば製紙用薬品では、紙のリサイクル率の向上や、操業時の環境負荷低減に資する製品が数多くあります。最近ではKJケミカルズ(株)の低毒性な機能性溶剤、新綜工業股份有限公司の無溶剤UV硬化型粘着剤、セルロースナノファイバー複合樹脂STARCEL®、非フッ素

系耐油コート剤、バイオフィルムコントロール剤など、当社技術を活かした開発品の拡販・用途展開も進んでいます。これら製品はいずれも、日常生活の快適さや心地よさの実現のお役に立ちながら、社会全体の環境負荷低減への貢献も果たすという面で、まさに当社の新しいミッション、「くらしをこちよく、みらいをあたらしく」を体現する製品であり、今後MVVに沿った当社グループの成長を支えてくれるものと確信しています。

また、24年に新設したDEI推進室からの提案を人事制度改革に反映させ、女性や外国籍社員のみならず、育児や介護など様々な生活のステージにある社員、障がいを持つ社員など、一人一人異なる個性を持つ社員がそれぞれに活躍できるような土壌づくりを行いました。

これから入社される方にお伝えしたいこと

現在進行形で変革の途上にある当社では、皆さんが企業の成長と自身の成長を重ね合わせることができ、やりがいのある面白い仕事に携わることができると胸を張って申し上げることができます。

当社グループは全社員で750名程度と規模は大きくありません。これは裏を返すと一人ひとりの社員が主役となって主体的に活躍できる場を数多く経験できるということです。若手社員でも重要なプロジェクトの一員として主体的に参画する機会が沢山あります。大きな組織の中で分業化された仕事を少しずつ任されるのとは異なり、社会人としての自身の成長を早くから実感できるでしょう。就活を行っている学生の方を始めとする、自身の自己実現の場を探索されている皆さん、当社グループに関心を持ってチャレンジしていただきたいと願っています。



おわりに

私たちCHEMIPAZは、今まさに新たな歴史の1ページを開いています。ミッションに掲げる「くらしをこちよく、みらいをあたらしく」の実現のため、全社一丸となって変革を推進し、新しい価値の創造に挑戦し続けてまいります。

皆様には、引き続きご支援とご指導を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

CHEMIPAZグループのサステナビリティ

当社グループは、事業環境の不確実性の増大、企業に求められる社会要請の質的・量的な高まりを受け、「環境・社会の持続可能性向上」と「当社グループの持続的な企業価値向上」の好循環を目指すため、重要な経営指針として、サステナビリティ基本方針を制定しました。

サステナビリティ基本方針

CHEMIPAZグループは、環境・社会の持続可能性向上に貢献しつつ、自らも持続的に発展することで、グローバルに企業価値向上を目指します。CHEMIPAZグループは、次の5項目を意識した事業活動を推進します。

- (1) 地球環境への配慮とリスクマネジメント
- (2) 新たな技術の創造による環境・社会・経済的価値の創出
- (3) 人権・ダイバーシティの尊重、安全・健康への配慮を通じた働きやすい環境・風土
- (4) ステークホルダーとの対話と価値協創による良好な関係構築
- (5) 法令遵守と適正なグループガバナンス

ESG 重要課題

当社グループではSDGsの枠組みを活用してマテリアリティの特定を行い「ESG重要課題」として取り組みを進めています。
※SDGsの項目別の取り組みをまとめたページはHPをご参照ください。(https://www.chemipaz.com/sustainability/sdgs/)

サステナビリティ基本方針	ESG重要課題	取り組み	関連 SDGs
(1) 地球環境への配慮とリスクマネジメント	気候変動対応	GHG排出量削減 (Scope1+2)、非化石エネルギーの利用拡大、生物多様性の保全等	  
	化学物質の適正管理の推進	新化学物質管理システムの導入によるマネジメント向上	  
	リスクマネジメント	BCPの策定と更新	
(2) 新たな技術の創造による環境・社会・経済的価値の創出	サーキュラーエコノミーへの取り組み	環境戦略製品の拡販、グリーン購入の推進、外部最終埋立処分量の削減	   
	DX	DX人材育成、DX意識・風土の醸成	
(3) 人権・ダイバーシティの尊重、安全・健康への配慮を通じた働きやすい環境・風土	ダイバーシティ&インクルージョンの推進	女性・海外人材・シニア人材・障がい者の活躍推進、働き方改革、従業員エンゲージメントの把握と向上等	  
	労働安全衛生の更なる向上	無事故無災害の達成に向けた取り組み、安衛法改正対応（自律的管理）	
	人材育成・組織づくり	若年層ジョブローテーション、中長期的課題への対応を見据えた新卒・即戦力採用の実施	
(4) ステークホルダーとの対話と価値協創による良好な関係構築	持続可能な原材料調達	サプライチェーン上での人権侵害把握努力、グリーン調達の実施、複数購買の推進	 
	品質マネジメントの向上	安全環境品質監査の実施、試験表発行システムの導入等	
	ステークホルダーコミュニケーション	非財務情報の開示推進、従業員コミュニケーションの強化	
(5) 法令遵守と適正なグループガバナンス	グループガバナンスの強化	内部統制の効率化・強化	

ESG 重要課題および SDGs に対する取り組みの進捗状況

24年中に特に進展した取り組みは以下の通りです。

- (1) 地球環境への配慮とリスクマネジメント
ー 気候変動対応

GHG削減

参照
P.41

CHEMIPAZグループでは、各工場においてGHG削減の取り組みを積極的に推進しています。
CHEMIPAZ水島工場は、専門メーカーと協働で実施した工場内の蒸気トラップ診断により、エネルギーロスの可視化に成功。徹底的な現状分析と改善により、前年度比11.5%の原単位削減、年間256.9トンものCO₂削減を実現しました。
KJケミカルズ八代工場では、2023年10月に稼働を開始した太陽光発電設備により、2024年には年間約170トンのCO₂削減を実現しました。また、さらなるCO₂削減に取り組んでおり、2023年比で112%のCO₂削減を達成しました。
これらの取り組みは、SDGs目標7「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」、目標13「気候変動に具体的な対策を」に貢献しています。



- (2) 新たな技術の創造による環境・社会・経済的価値の創出
ー DX人材育成、DX意識・風土の醸成

生成AIの導入

参照
P.35

CHEMIPAZグループは、SDGs目標8「働きがいも経済成長も」の実現に向け、デジタル技術を活用した働き方改革を推進しています。全社的なDX推進として、CHEMIPAZ情報システム部では2024年11月に生成AIサービスを導入し、機密情報を扱える専用環境を整備しました。AIとのチャット機能や翻訳機能により業務効率が向上し、今後は社内文書を活用したRAG（検索拡張生成）機能の開発も予定しています。

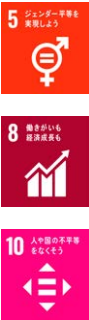


- (3) 人権・ダイバーシティの尊重、安全・健康への配慮を通じた働きやすい環境・風土
ー ダイバーシティ&インクルージョンの推進

ダイバーシティ&インクルージョンの推進

参照
P.32

CHEMIPAZでは、2024年5月にDEI推進室を設立しました。女性活躍推進に向けた女性向けキャリア研修の実施等を通じ、えるぼし認定の維持・向上を目指しています。また、グローバル人材の採用や障がい者雇用を積極的に進め、多様な人材が活躍できる職場環境の整備に取り組んでいます。こういった活動を通じ、SDGs目標5「ジェンダー平等を実現しよう」、目標8「働きがいも経済成長も」、目標10「人や国の不平等をなくそう」の実現に貢献しています。



リブランディング



リブランディングの経緯

当社グループは2023年のカーライルの資本参加に伴う非上場化を機に、企業価値の向上のため各種施策を実施し、着実な成果を得ています。

一方、今後の更なる企業価値の向上のためには、ブランドイメージの刷新を行い、ステークホルダーの皆様当社の存在をより強くご認識いただくこと、当社グループが一丸となって「より強く生まれ変わる」という意思をグループ内外問わず強く示すことが必要であると考えました。そこで、リブランディングの一環として、星光PMC㈱の社名変更を行うことになりました。

新たに変更した社名「CHEMIPAZ（ケミパズ）」は、2024年に策定したMVV「くらしをこちよく、みらいをあたらしく」とともに、当社変革の旗印としていきます。

今後もこれまで培った当社ならではの技術力・価値観を大切にしつつ、ステークホルダーの皆様と共に「くらしをこちよく、みらいをあたらしく」を実現し、社会に貢献してまいります。

新社名に込めた想い

新社名「CHEMIPAZ」は我々の、社会に対して叶えたい思いを融合した言葉です。

我々の強みの源泉である化学（CHEMICAL）で
お客様と更なる高みを目指して共創します（CHEMISTRY）。

お客様とパートナー（PARTNER）になり人々（PERSON）の
日々のくらしのあらゆる場面（A～Z）に貢献する商品を提供し、
その喜びをさらなる情熱（PASSION）に変えます。

当社は、くらしを「パツ」と明るくし、「ずっ」と照らすことを社会に約束します。



■ 新社名を聞いた社員の感想



管理本部メンバー

Q. 社名案を初めて見た時の感想を教えてください

A. 初めて社名案を目にした際は、私たち社員の考えや思いが十分反映されているのか不安を感じました。しかし、その背景や込められた意図について詳しく説明を受けると、私たちの価値観や目指す方向性がしっかりと組み込まれていることが分かり、安心感を覚えました。

Q. 社名変更をすると聞いた時の感想を教えてください

A. 社名変更の発表時は、どんな名称になるか想像できず、長年親しんだ社名から離れる不安がありました。しかし社員の思いや理念が取り入れられていると知り、今では新たな社名を前向きにとらえています。



生産本部メンバー

Q. 社名案を初めて見た時の感想を教えてください

A. 社名案の候補をいくつか見ましたが、それぞれの案において当社の思いが込められていたり、企業理念を反映しており、当社の強みを的確に表現している社名が多かったことに驚きました。パートナーとして人々の暮らしに寄り添う姿勢が伝わる案も多く、新社名への期待を感じました。

Q. 今後どのようにリブランディングにつなげていきたいですか？

A. 慣れ親しんだ星光PMCから離れてCHEMIPAZとしてスタートするという気持ちを持って、今後行われるメインビジュアル発表などを通じて、当社の価値向上に繋がるよう努めたいです。

■ ログに込めた想い

ロゴの形は従来の社名であり、社員にも愛着のあった「星光」に由来します。星光PMCのDNAを大切にしながら、社会を「照らす」先進性（今後ありたい姿）と、日々を「支える」堅実性（これからも維持したい姿）を2色のシンボルロゴで表現しています。

お客様と共に成長していく姿勢を、右上がり描き、ロゴの書体は、力強く構えながらも、現代的なやわらかさと親しみやすさをもたせています。



■ 管理本部長コメント

このたびのリブランディングプロジェクトでは、外部コンサルタントにご支援をいただきながら、若手社員を中心としたプロジェクトチームが中心となり、リブランディングに取り組みました。当社グループのアイデンティティを『色』や『動物』に例えるところから始まり、新社名への思いを社内公募するなど、多角的な議論を重ねました。また、当社グループの社会的価値や将来のビジョンについても深い討議を行いました。

新社名『CHEMIPAZ』とそのロゴには、旧星光PMCグループとして培ってきた伝統や価値観を継承しつつ、新たな時代に向けた私たちの志・想いが込められています。この新たな社名のもと、持続可能な社会の実現に向けて、より一層の貢献を果たしてまいります。



CHEMIPAZ㈱
管理本部長
河野 宏治



社名変更プロジェクト座談会 ～プロジェクトメンバーの本音トーク～

「星光PMC」から「CHEMIPAZ（ケミパズ）」へ。この大きな変化に携わったプロジェクトメンバーが、社名変更の過程で感じた想いや気付き、そして新たなブランドへの期待を語り合いました。

社名変更への不安と期待

――社名を変更すると聞いた時、どのように感じましたか？
河埜：就職活動で星光PMCという名前を知った時から『具体的に何をしている会社なのか』と疑問に思っていました。社名変更の話聞いた時には『ついに』という期待がありました。ただ、検討過程で様々な案を見るうちに、星光PMCの持つ老舗感のある良さにも気付きました。新社名では『CHEMI』という言葉が入り、事業内容が名前から伝わるようになったのは良い変化だと思います。また、ロゴに星のモチーフが残されたことで、星光に愛着を持つ社員にとっても新社名に親しみやすさが生まれていると思います。



菅：私は営業なので、お客様から『星光さん』とか『PMCさん』とか毎日のように呼ばれています。長年築上げてきたブランド名を変更することには当初は抵抗と不安がありました。しかし、実際に変わった後、お客様に『PMCって何の略か知っていますか』と尋ねると、ほとんどの方が知らないと答えたので、変更も悪くないと考えが変わりました。現在では新しい社名にも親しみを感じています。先日お客様から『ロゴが素敵ですね』と言われた時には、新ブランドへの移行がうまくいっているなと実感しました。
――新社名「CHEMIPAZ」を初めて聞いた時、どのような印象を持ちましたか？

石井：複数の新社名候補案の中から選ばれた『CHEMIPAZ』は私の中では2番目に良いと思った案であり、良い社名案

であると感じていましたが、社員の皆さんが受け入れてくれるかという点では、少し心配もありました。

嶋田：新社名発表会の後、所属する工場では、最初は社名に対する疑問の声もありましたが、ヘルメットや作業着が来て実際に目にすると、『カッコいい』という印象が変わったようです。皆さん前向きに受け入れてくださっているのを見て嬉しいです。

集中討議を経て気付いた当社の強み

菅：社名案の公募プロセスを通じて、社員の星光PMCへの強い愛着を感じました。また、集中討議の中で外部コンサルタントから『顧客に対する異次元の対応力』と評価されたことで、それが当社の強みだと再認識することができました。

河埜：私は営業スタイルについて詳しくなかったので、『顧客に対する異次元の対応力』が当社の突出した強みだということを初めて認識しました。この強みは新社名に含まれる『パートナー』、『パッション』という要素にも反映されていると思います。

石井：MVVを考える時も当社の対応力の高さが強みとして挙がっていました。資材部での経験からも、そんな営業は他にいないなと思い、当社の営業力を実感できました。また、社員が星光というワードに愛着を持っているということも印象的でした。

嶋田：化学メーカーとして顧客に対して積極的かつ柔軟に対応している点を多くの社員が強みとして挙げていました。私たち自身は業務の中で当たり前に行っていたことが、外部コンサルタントから『それはすごいことですよ』と高く評価され、この対応力が当社の大きな強みであると客観的に認識することができました。

プロジェクトで印象に残っていること

菅：当社のイメージを動物や色で表現する討議では、皆さん共通して『真面目』・『誠実』という現在の姿勢と、『挑戦』・

『変化』という将来目指したい方向性を挙げていたことが印象に残っています。CHEMIPAZとなって変化していく過程を全社的に前向きに楽しめれば、会社として良い方向に進んでいけるのではないかと思います。

嶋田：最初に多くの新社名案が出てきた時の沈黙が印象に残っています。皆さん真剣に考えていて、挙がってきた案をそのまま受け入れるのではなく、さらに議論を重ねました。提案に対して受け入れ、さらに改善していく外部コンサルタントの寛容な姿勢も学びになり、今後の参考になりました。

石井：実は社名変更は完全には終わってなくて、名刺の作成など、細かな実務が多く残っています（2025年4月時点）。プロジェクト自体は一区切りついたものの、社外から



の認知向上のためには、これからが本当の始まりだと感じています。

河埜：これまでは硬い雰囲気会社と接することが多かったのですが、今回コミュニケーションデザインの会社と仕事をする機会があり、非常に新鮮な経験となりました。提案一つ一つに対する高い言語化能力や『ワクワクする仕事がしたい』という姿勢に触れ、色々な業種や業界の人と関わることで刺激をもらえると感じました。社名に対する想いとして『楽しむ』という姿勢を大事にして、自分だけでなく周りも楽しくできるような仕事の仕方を目指したいと考えています。

5年後、10年後に目指す CHEMIPAZブランドの姿

河埜：星光PMC時代よりも、より社会的な知名度を高めたいです。化学業界において、先進的で高収益な企業として



確かな評価を得て、採用市場では『CHEMIPAZで働きたい』と優秀な方から選ばれる会社を目指したいです。これらを実現させていく過程で、社員のエンゲージメントも高まっていくと思います。

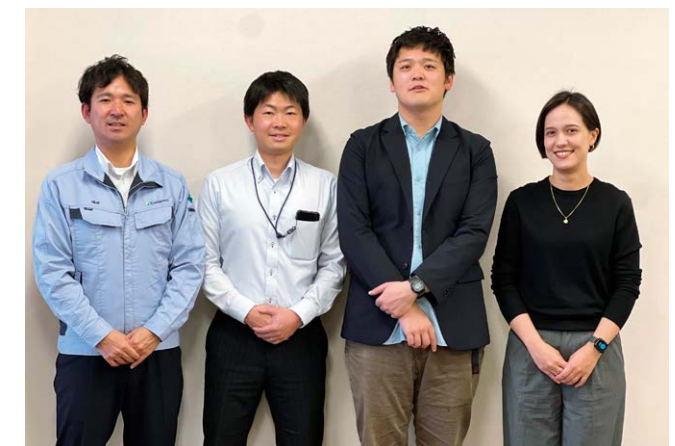
菅：5年後、10年後には事業構造が変化していることを期待しています。現在の主力である製紙用薬品事業の国内の事業環境は厳しいため、総合化学メーカーとして、同事業に匹敵する事業がいくつか確立できていればと思います。事業を多角化することが当社の持続的成長への道だと思っています。

嶋田：明石では『星光』の名を告げれば、説明不要で地元タクシーが目的地に運んでくれるほどの存在でした。新社名に変わっても、業界内だけでなく一般の方にも認識してもらえる会社にしていきたいと思っています。さらに、グループ全体の成長を通じて、国内外で『CHEMIPAZグループ』として認知される世界的なブランドを目指したいです。

新たな挑戦がもたらした視野の広がり

石井：通常業務では実務的な判断や調整が中心でしたが、このプロジェクトでは抽象的な概念を形にしていく必要があり、新しい挑戦となりました。明確な正解のない課題に取り組むのは大変でしたが、仕事への視野を広げる機会となりました。

菅：地方営業から本社へ異動し、このプロジェクトに参加しました。本業との両立は大変でしたが、これまで考える機会のなかった企業としての在り方について深く考えることができ、貴重な経験となりました。



インタビューコメント

社名変更という大きな転換点において、若手・中堅社員が中心となって進めたプロジェクト。伝統を大切にしながらも、変化を前向きに捉える姿勢が印象的でした。新しいブランドへの期待とともに、各々が成長できる機会となったようです。

企業情報

会社概要

商号：CHEMIPAZ株式会社

設立：1968年1月

代表者名：代表取締役社長執行役員 菅 正道

本社所在地：東京都中央区日本橋本町3丁目3番6号

従業員数：755名（2024年12月31日現在）
※グループ会社、再雇用社員、嘱託社員、契約社員を含む

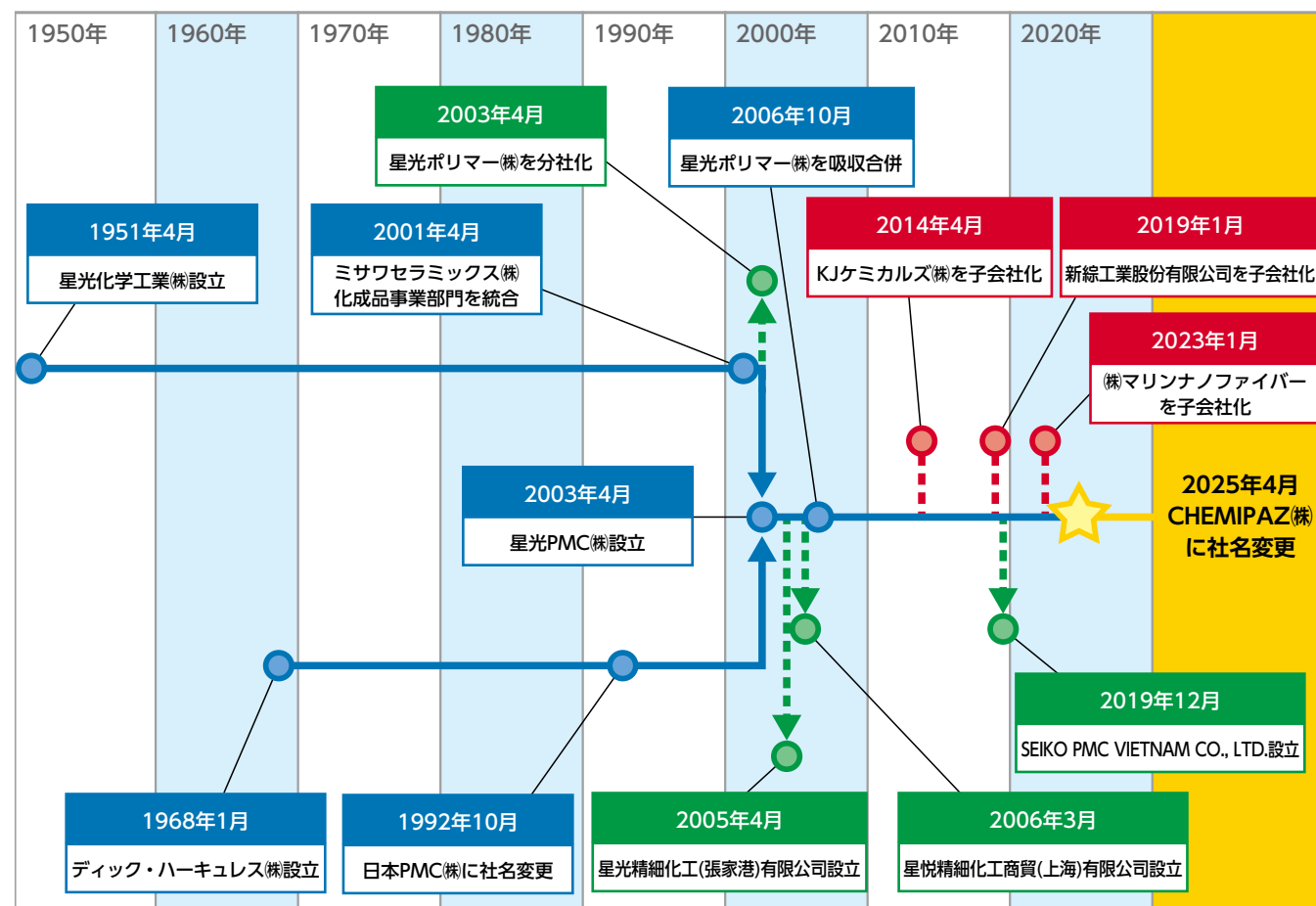
事業内容：紙力増強剤・サイズ剤等の製造・販売
印刷インキ用樹脂・記録材料用樹脂等の製造・販売
合成樹脂・化学工業品およびその関連製品の製造・加工および販売

グループ会社：KJケミカルズ株式会社（東京都中央区、化成品事業）
KJケミテック株式会社（熊本県八代市、エンジニアリング）
株式会社マリンナノファイバー（鳥取県鳥取市、高機能化学材料事業）
星光精細化工（張家港）有限公司（中国江蘇省張家港市、製紙用薬品事業）
星悦精細化工商貿（上海）有限公司（中国上海市、製紙用薬品事業およびプリンティング&コーティング事業）
新綜工業股份有限公司（台湾桃園市、粘着剤事業）
SEIKO PMC VIETNAM CO., LTD.（ベトナムホーチミン市、製紙用薬品事業）

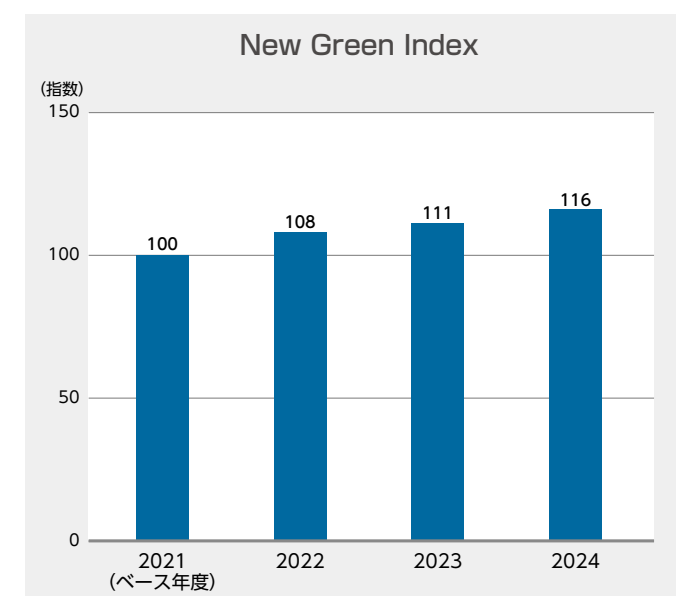
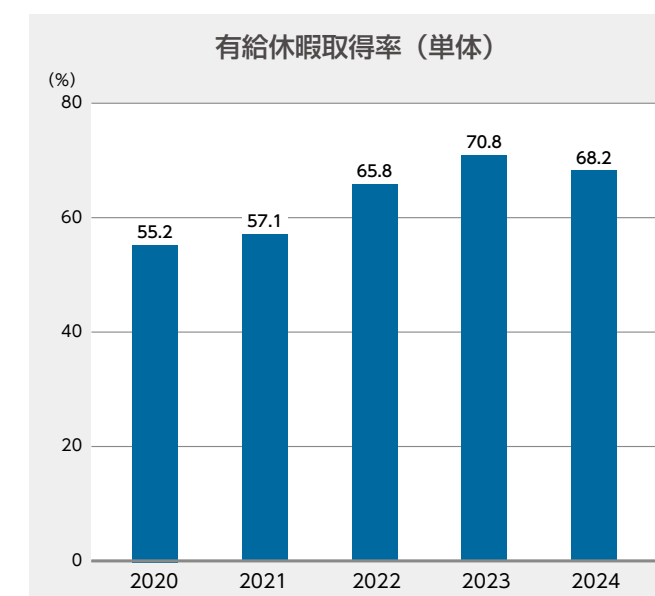
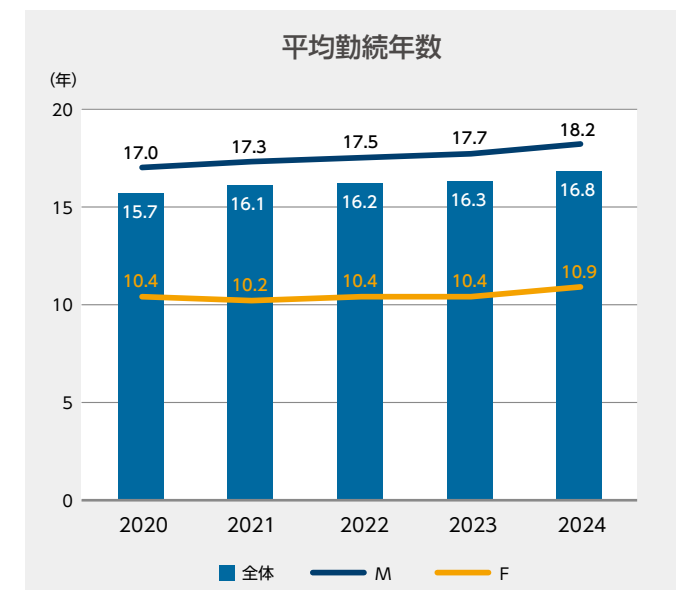
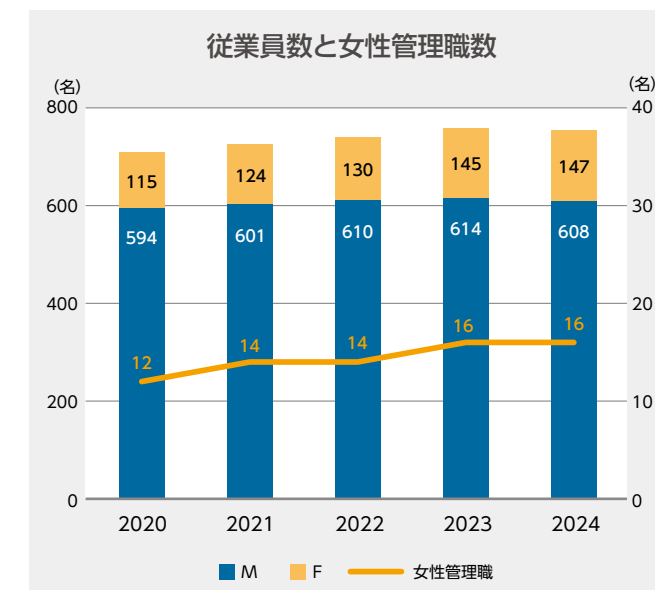
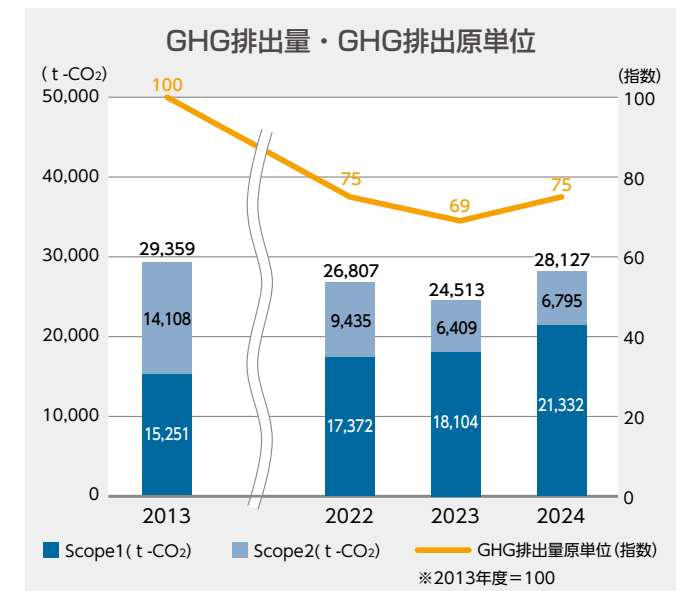
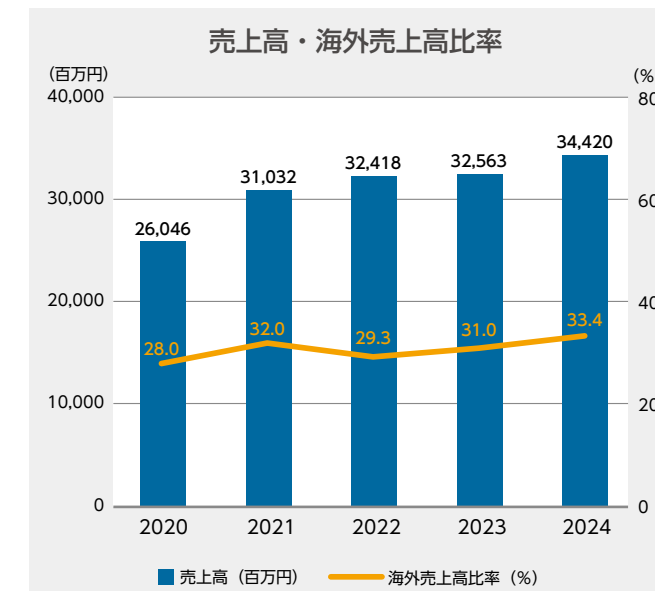


本社（ワカ末ビル8F）

沿革



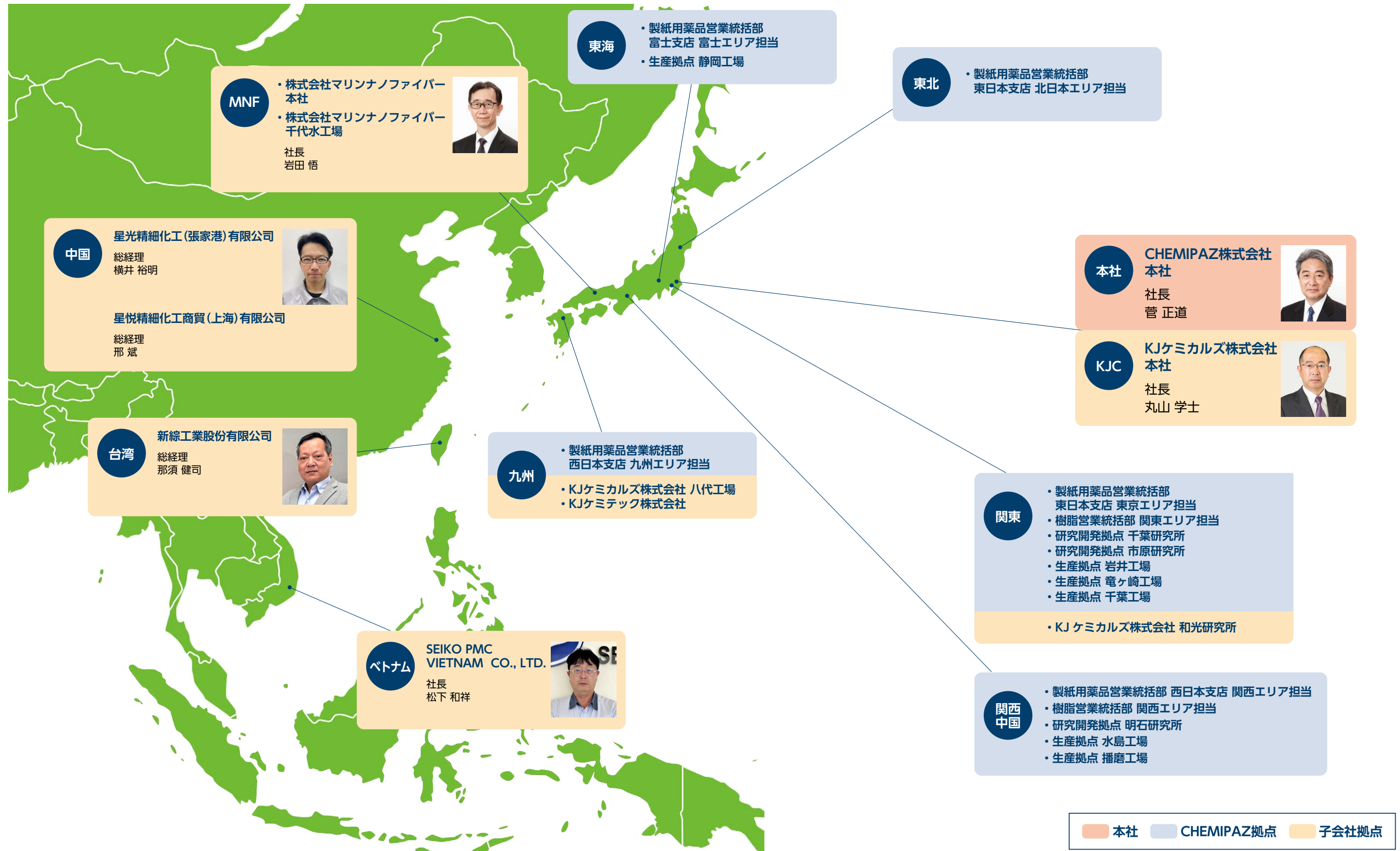
財務・非財務ハイライト



※New Green Indexとは環境戦略製品の売上高指標を指します。
(参照：P.38)

拠点情報

CHEMIPAZは、日本およびアジア圏を中心として事業展開を行っています。



各拠点トピックス

EcoVadis2024年調査

EcoVadis社は、グローバルなサステナビリティ評価のリーディングカンパニーとして、世界185カ国以上において、150,000社を超える企業のサステナビリティ（持続可能性）パフォーマンスを、厳格な基準に基づいて客観的に評価する信頼性の高いプラットフォームを提供しています。

当社グループでは、ヨーロッパ向けの製品提供を行っているKJケミカルズと新綜工業がEcoVadisの認証獲得に毎年挑戦しています。その中で、KJケミカルズは卓越したサステナビリティへの取り組みが高く評価され、評価対象企業の上位5%以内という極めて優れた企業のみが獲得できる「ゴールド評価」を獲得しました。また、新綜工業においても、持続可能な企業活動への真摯な取り組みが認められ、上位35%以内の優良企業にのみ付与される「ブロンズ評価」を獲得しています。

拠点ごとのGHG削減の取り組み

CHEMIPAZ (株) 水島工場：

工場でエネルギー損失の大きいものに蒸気漏れがあります。蒸気を管理する上で重要な役割を果たすものに「蒸気トラップ」という装置があり、これは蒸気を効率的に使うための重要な設備です。この装置が正常に動作していないと、気づかないうちにエネルギーのムダが発生してしまいます。

そこで、水島工場では専門メーカーと協力して、工場内の全ての蒸気トラップの状態や配管の流れを詳しく調査しました。その結果を基に、効率の悪い箇所を特定して改善することで、より環境に優しい、エネルギー効率の高い工場へと生まれ変わることができました。

このように、私たちは常に改善を重ね、持続可能な製造現場を目指しています。

削減効果

前年度原単位比：-11.5%
CO₂削減量：-256.9tCO₂



拠点ごとの地域活動

CHEMIPAZ (株) 千葉研究所：

千葉研究所は、2024年10月に日本赤十字社より毎年の献血への協力に対して表彰されました。

日本赤十字社の献血スタッフが年2回来所し、毎回15～20名の所員が参加し、献血をしています。献血活動を通してわずかでも地域医療への貢献ができるのではないかと考えています。

また、千葉研究所では、毎年2回、所在する緑の森工業団地内の道路清掃活動を行っています。

定期的に5名程度の所員が、工業団地内の道路脇に落ちているゴミを拾い集めて、地域の美化に努めています。



拠点ごとの安全・防災活動

CHEMIPAZ (株) 静岡工場：

富士宮市防火安全協会主催の消火技術競技大会に、社員2名で参加しました。この大会は、消防法危険物を扱う事業所の防災体制強化を目的としています。

(参加者のコメント)

私たちが参加した消火器部門では、通報から消火までの一連の動作を競います。先輩に消火器の操作などを教わりながら、業務の合間を縫って練習した結果、見事3位入賞を達成しました！大会常連の強豪他社の中で満足のいく結果となりました。

実践的な防災訓練を通じて、チームワークの重要性和安全意識の向上を実感できた貴重な経験となりました。



海外拠点トピックス

SEIKO PMC VIETNAM CO., LTD.：

SEIKO PMC VIETNAMでは、従業員の一体感醸成と相互理解を深めるための取り組みを積極的に行っています。

その一環として、ベトナム・ホーチラム地区への社員旅行を実施しました。温泉やビーチでのチームビルディング活動を通じて、日本人駐在員とローカルスタッフの交流を深めました。

また、CHEMIPAZ本社との交流も積極的に行っており、2024年度は取締役常務執行役員をはじめとする経営陣や資材部が工場を視察。現地従業員との対話や施設見学を通じて、相互理解を深めました。

SEIKO PMC VIETNAMはCHEMIPAZグループのグローバル展開における重要拠点の一つです。今後も、文化や考え方、ビジネス環境の違いを理解し合う努力を続け、全社一丸となって目指す姿の実現に向けて取り組んでまいります。



星光精細化工（張家港）有限公司：

星光精細化工（張家港）は、企業の社会的責任（CSR）活動の一環として、無錫太湖大道において清掃活動を実施しました。

本活動には、従業員26名とその家族16名の計42名が参加し、全員が当社ユニフォームを着用して一体感のある活動となりました。

当日は好天に恵まれ、観光地特有のペットボトルや食品包装材などの収集を中心に、参加者全員で環境美化に取り組みました。本活動を通じて、地域社会への貢献と環境保全の意識向上を図るとともに、従業員間の交流促進にも寄与いたしました。

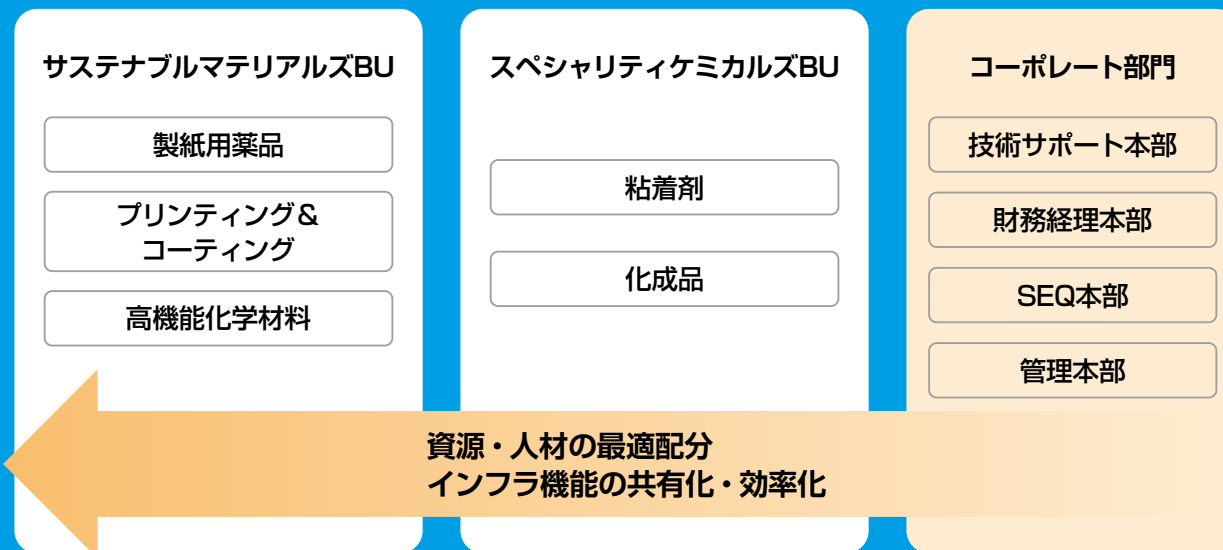
今後も継続的な環境保全活動を通じて、地域社会との調和ある発展に努めてまいります。



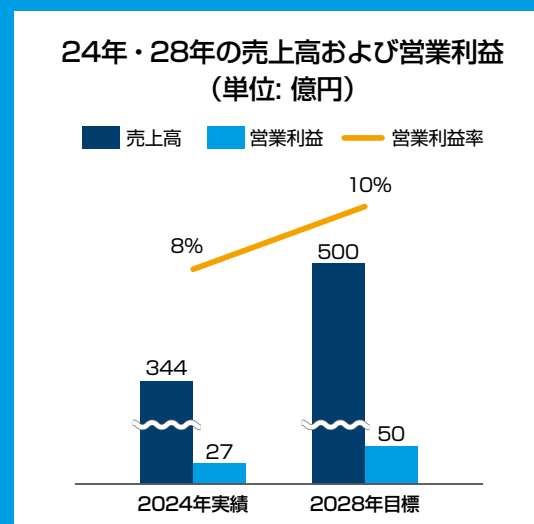
事業体制の変革

■ 事業体制の変更の概要

CHEMIPAZグループではグループ一体経営に向けて、事業体制の変革を行っています。組織の壁をできる限り減らし、様々な場所でシナジーが生まれるよう、組織を二つのビジネスユニットに分け、管理部門などの横ぐし組織がビジネスユニットの事業運営を支える体制となっています。



■ 新中期計画 Action2028 の実現に向けて



当社グループは「独自性のある技術でニッチトップを目指し、ここちよくらしと新しい未来を生み出す企業になる」という将来像を持ちながら新中期経営計画「Action2028」を策定しました。2028年の業績目標値は売上500億円、営業利益50億円と、営業利益年平均成長率16%となる高い目標です。この業績目標は近い将来の再上場を意識したものであり、全社一丸となって前へ前へと進んでいます。

高成長を実現するためには海外売上拡大が必要であり、中国とベトナムに生産販売拠点を有するサステナブルマテリアルズBUは、開発・生産の連携によるコスト削減や営業体制強化による販売促進を進めています。スペシャリティケミカルズBUは元より中国・北米・欧州での販売比率が高い事業であり、海外売上成長を支える生産能力の増強と、さらなる顧客開拓・地域開拓のための販売ネットワークの拡充を進めています。

■ COOメッセージ



取締役副社長執行役員
湯田 克久

24年7月に策定した中期経営計画では、海外展開の加速と既存事業の再構築および新製品・新事業の創出を柱としています。この実行体制を整えるため、従前5つの事業に分かれていた事業組織を2つのビジネスユニット(BU)に括りました。大括り組織の狙いは、機動的なリソース（ヒト・モノ・カネ）最適配置とBU内シナジー創出です。また化成品事業のKJケミカルズと粘着剤事業の新綜工業はCHEMIPAZ（製紙用薬品事業、プリンティング&コーティング事業、高機能化学材料事業の一部を展開）の子会社ですが、共に売上、利益が順調に成長し、EBITDAでは親会社事業と子会社事業が同等になりました。中期計画の事業ポートフォリオにおいても、これら子会社事業の成長性がより大きな役割を果たしています。この将来像を組織構造で体现するため、親会社側事業であるサステナブルマテリアルズBUと同格のスペシャリティケミカルズBUを創設しました。

■ サステナブルマテリアルズBU長メッセージ



常務執行役員 村田 満広

サステナブルマテリアルズビジネスユニット（SMBU）は、祖業である製紙用薬品事業、樹脂事業と、これらの基盤技術を応用した新規事業、及び海外事業部として活動していた中国、ベトナムの製紙用薬品事業が一つになった組織です。従来も各事業部内での最適化の一方で、事業部間のリソース配分やシナジーの検討等の施策は進めておりましたが、今後、事業拡大のスピードアップのために、より自由度とスピード感を持って各種施策を実行してまいります。事業拡大のスピードアップは勿論ですが、将来的に、かつ永続的に、CHEMIPAZが成長し続けるためには、社員それぞれが、幅広い視点を持って仕事に臨むことが重要だと思います。従来の「事業の壁」を無くしたことを契機に、他部署・他部門・他本部、さらにはSCBUに至るまで、より幅広く「知る」「見る」ことを習慣化して欲しいと思います。

■ スペシャリティケミカルズBU長メッセージ



常務執行役員 丸山 学士

スペシャリティケミカルズビジネスユニット（SCBU）は、台湾に拠点を構え、粘着剤を製造販売する新綜工業、熊本に製造開発拠点を構え、アクリルモノマー、ならびにその製造技術を活用した機能性溶剤、ウレタンオリゴマー等を製造販売するKJケミカルズ、そして、ビジネスユニット全体を俯瞰し、将来を見据えた事業運営と事業企画を担う、SCBU事業企画本部から構成されています。新綜工業は、営業・生産体制の強化はもとより、開発拠点を日本国内にも設け、事業拡大に向けた取り組みを進めております。KJケミカルズは、設備増強による増産・コスト・品質改良を進めると共に、新商品の量産に向けた設備投資を進め幅広い顧客のニーズに応える体制作りを進めております。持続可能な社会の実現に向け、より良いファインケミカルを世界の皆様に提供すべく、楽しく課題に取り組めます。

CHEMIPAZ を構成する 5 つの事業領域

製紙用薬品

■ 主要製品

- ・サイズ剤
- ・紙力剤
- ・印刷適性向上剤
- ・IJ耐水化剤
- ・クレープ剤
- ・風合向上剤
- ・微生物製剤



■ 概要

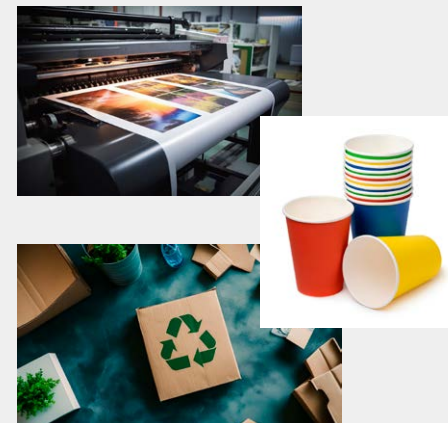
製紙用薬品とは、その名の通り「紙」を製造する際に使用する薬品の総称です。製紙用薬品は、用途に応じて必要とされる様々な機能を紙に付与します。当社の製紙用薬品は、主に製紙会社で利用され、最終的に文房具、段ボールなど様々な最終製品になって皆様の生活を支えています。

安定的な国内事業に加え、中国市場、東南アジア市場を中心として海外展開も行うことで、更なる発展を目指します。

プリンティング&コーティング

■ 主要製品

- ・グラビアインキ・フレキシインキ用樹脂
- ・インクジェットインキ用樹脂
- ・紙用ニス
- ・塗料用顔料分散樹脂エマルジョン
- ・フィルム用エマルジョン
- ・特殊変性ポリオレフィン
- ・水性バイオマス樹脂



■ 概要

プリンティング&コーティング事業では、様々なパッケージに彩りを与える印刷インキ用の樹脂を中心に、関連する様々な機能性樹脂を製造しています。主力製品である水性インキ用樹脂は、国内のみならず、中国・東南アジアを中心とした海外においても高い評価をいただいております。最近では、バイオマス素材を使用した素材開発や、脱プラスチックに貢献する紙用機能性コーティング剤の開発など、環境対応型製品の開発を加速しています。

化成品

■ 主要製品

- ・機能性モノマー
- ・機能性オリゴマー
- ・機能性溶剤
- ・プリン誘導体



■ 概要

当社グループのKJケミカルズが担う化成品事業では、アクリルアミド誘導体を中心とした、様々な機能性材料を製造しています。環境意識の高まりを背景に市場が拡大している無溶剤（UV硬化樹脂）系や水系の塗料・インキ・粘着剤等の分野に向けたモノマーやオリゴマーに注力しており、特に、皮膚刺激性が低くUV硬化性が高いモノマーを多数ラインナップしています。また、モノマー製造で培った技術を活用し、高溶解性かつ安全性に優れるアミド系溶剤「KJCMPA[®]-100」を世界に先駆け提供しています。

粘着剤

■ 主要製品

- ・UV硬化型粘着剤
- ・溶剤型粘着剤



■ 概要

当社グループの新綜工業が担う粘着剤事業では、生活を豊かにする多様な製品の製造工程で使用される粘着剤を扱っています。

例えば、スマートフォン画面の商品保護用途、自動車部品等を固定する工業用途、タッチパネル部材の貼り合わせに使用される光学用途、半導体の製造工程で使用されるプロセス用途など、多岐にわたる業界・用途で活用されています。有機溶剤蒸気を排出せず、作業にも優しいUV硬化型粘着剤の提案にも積極的に取り組んでいます。

高機能化学材料

■ 主要製品

- ・セルロースナノファイバー
- ・銀ナノワイヤ
- ・キチンナノファイバー
- ・バイオフィルムコントロール剤



■ 概要

高機能化学材料事業では、新規開発品であるセルロースナノファイバー、銀ナノワイヤ、バイオフィルムコントロール剤、マリンナノファイバーの担うキチンナノファイバー等を含む、様々な高機能素材を扱います。環境に優しく、かつ、機能性の高い素材を市場に提案することで、お客様の新たな価値創造へ貢献しています。

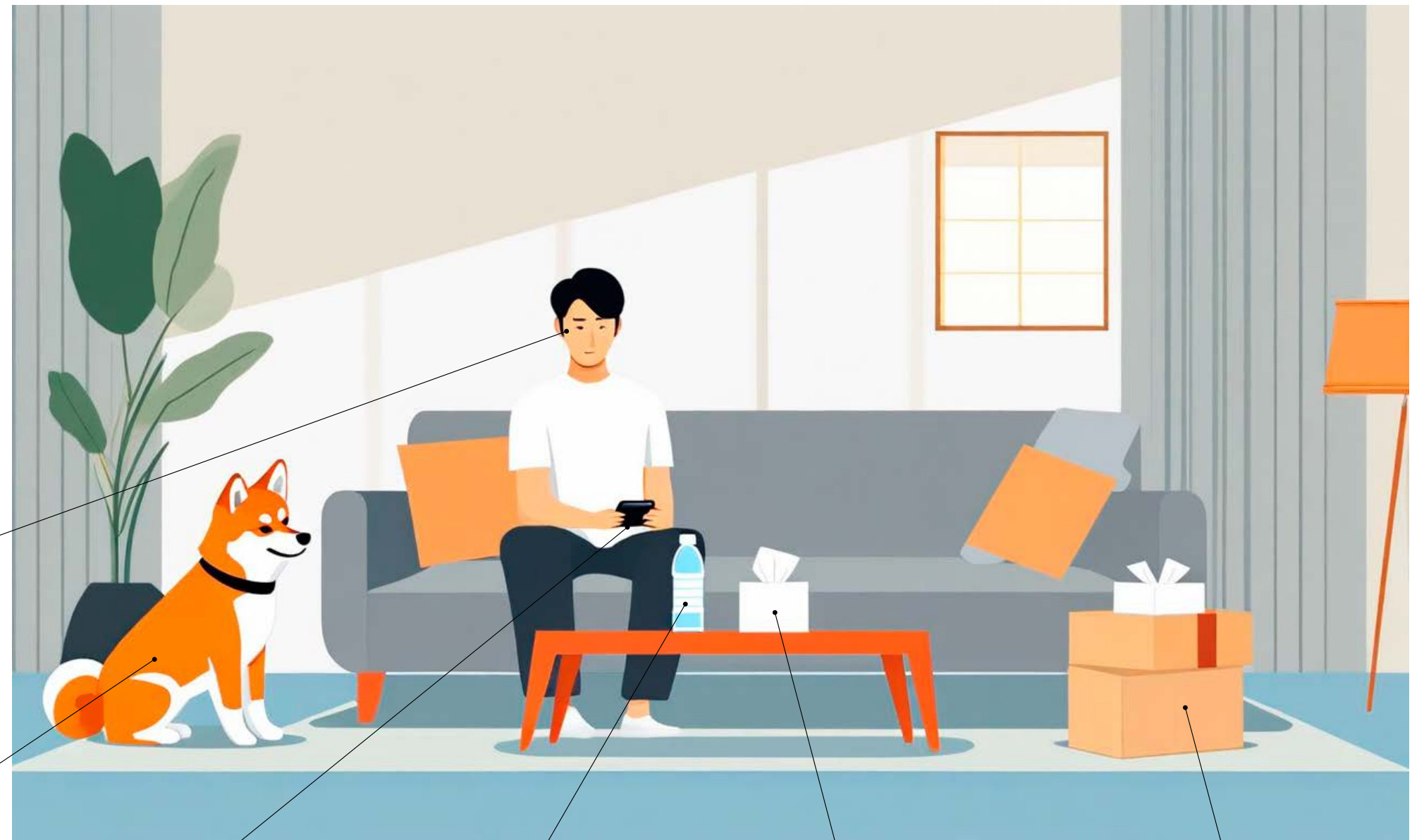
くらしを「パッ」と明るくし、「ずっ」と照らす、CHEMIPAZグループの製品

私たちの生活は、目に見えない化学技術に支えられています。化学製品は、日々の暮らしの様々な場面で活躍し、より快適で安心できる生活環境を実現しています。

リビングでくつろぐ時間、ペットとの時間、デジタル機器を利用するとき、日用品を使うとき——これらすべての瞬間に、CHEMIPAZグループの技術が寄り添っています。右の図をご覧くださいと、私たちの製品がいかに身近な生活に溶け込んでいるかがお分かりいただけるかと思います。

化学の力で、より豊かな未来を創造すること。これが私たちCHEMIPAZグループの大切な使命です。自然との調和を大切にしながら、持続可能な社会を目指して、確かな技術力で皆様の暮らしを豊かにすることに日々取り組んでいます。

CHEMIPAZグループは、これからも暮らしを「パッ」と明るく、「ずっ」と照らし続けます。



コンタクトレンズ

KJケミカルズの扱う機能性モノマーは、アクリルアミド誘導体を中核技術とし、コンタクトレンズにも使われています。環境負荷が少ない製品づくりを追求し、独自の合成技術で安全で機能的な素材を提供しています。

ペット

マリナノファイバーの扱うカニの殻から生まれたキチンファイバーは髪の毛の1万分の1の超極細繊維です。水によく分散し、化粧品やペットケア製品に使用され、保湿力と安全性で暮らしを支える天然素材です。その確かな実力と安全性から、動物病院でも使われています。

スマホのフィルム

新綜工業の粘着剤はスマートフォンフィルムや医療用テープなどに使用されており、暮らしのあちこちで活用されています。特に、溶剤を使用しないUV硬化型粘着剤は、使用時に有害な溶剤蒸気が発生しないことから、環境と人にやさしく、安全性と機能性の両立を実現しています。

ペットボトルのラベル

私たちの身近にあるペットボトルのラベルや食品の包み紙には、CHEMIPAZの水性インキ用樹脂が使われています。鮮やかな発色と耐久性を両立し、安全性にも配慮した素材で、彩りある生活を演出します。

ティッシュペーパー

CHEMIPAZの湿潤紙力剤や風合向上剤、クレープ剤はティッシュペーパーのやわらかさと強度を両立させる製品群です。ティッシュペーパーが、鼻をかんだり机に零した水を拭いても破れにくく、一方で肌触りが良いのは、当社製品が使われているためです。

段ボール

CHEMIPAZの乾燥紙力剤は段ボールの強度を高め、大切な荷物を守る縁の下の力持ちです。リサイクルした紙にも強度を与え、環境負荷低減と物流の安全性向上に貢献する先進素材です。

製品トピックス

■ CHEMIPAZ(株) バイオフィームコントロール剤 BR-310

バイオフィームとは、細菌が形成する強固な粘性付着物です。殺菌剤や洗浄への耐性が強く、医療や、食品製造、日常生活において健康被害や経済損失を引き起こす要因として知られています。2024年から、抗菌製品技術協議会（SIAA）による、加工製品の「抗バイオフィーム」認証制度がスタートしており、防除技術への注目が高まるとともに、新たな市場が形成されつつあります。

CHEMIPAZでは、これらのトレンドに先駆けて、効果的にバイオフィームを防除する「バイオフィームコントロール剤」を開発し、販売を開始しています。本製品は、細菌の生理状態の制御技術「QS（クオラムセンシング）阻害」を実用化したもので、高いバイオフィーム防除効果と、安全性を備えています。また、2024年には、バイオフィームの防除、抗菌、一般汚れの洗浄をワンステップで完了することのできる新製品BR-310を開発し、食品工場の衛生対策等で成果を上げています。

今後は、バイオフィームコントロール剤の適用分野の拡大や、海外市場への展開、コーティング剤等の応用技術の開発にも注力し、様々なバイオフィームトラブルの解決に貢献していきます。

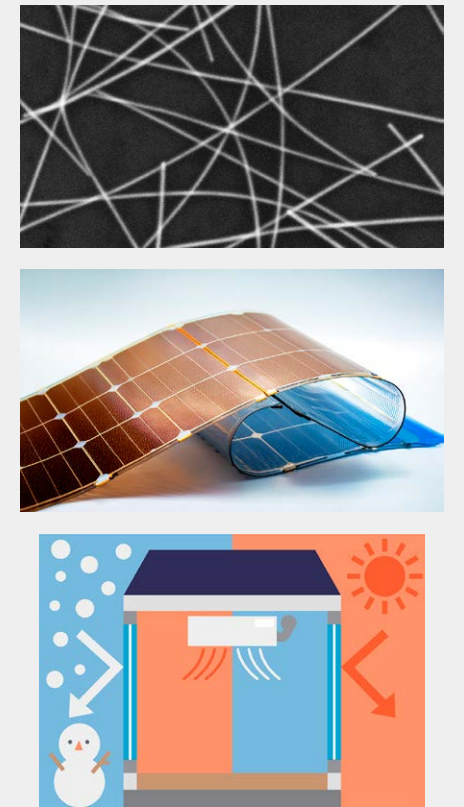


■ CHEMIPAZ(株) 銀ナノワイヤ

CHEMIPAZでは、直径がナノサイズでワイヤ状の銀である銀ナノワイヤの分散液の開発を行っています。銀ナノワイヤ分散液は、ガラスやプラスチックフィルム等の基材に塗布することで、透明性を保ちつつ、導電性や遠赤外線反射特性といった機能を付与することができます。

透明かつ導電性を有する材料は、タッチパネルのセンサーやディスプレイの表示電極、太陽電池の透明電極などに利用されています。これらの用途に現在広く用いられている材料としては酸化インジウムスズ(ITO)がありますが、銀ナノワイヤはITOに比べて屈曲性に優れているとともに、フィルム等の耐熱性が低い基材にも高い導電性を付与しやすいといった特徴があります。そのため、例えば、近年注目されているフィルム型太陽電池の透明電極として銀ナノワイヤが期待されています。

また、透明かつ遠赤外線反射特性を有する材料はLow-E膜と呼ばれ、冬場の暖房の熱を外に逃がしにくくする効果があるため、例えば、住宅の複層ガラス等に利用されています。しかしながら、普及しているLow-E膜は、通信電波も反射してしまうため、電波障害が懸念されています。一方で、銀ナノワイヤを用いると電波障害を起こさないLow-E膜が作成可能なため、現在Low-E膜への銀ナノワイヤの展開も進めています。



■ (株)マリンナノファイバー キッチンナノファイバー

(株)マリンナノファイバーは、キッチンナノファイバーを製造販売する会社です。鳥取県境港で水揚げされた蟹の殻を独自の技術で極めて微細な繊維にします。鳥取で取れた非可食バイオマスを鳥取でナノファイバー化しており、地域資源を活用した持続可能なビジネスモデルとしても注目されています。

創傷治癒や抗炎症などキッチンの有用性は広く知られていましたが、水に分散しにくいいため、その用途は限られていました。マリンナノファイバーは独自技術でキッチンの繊維の束を効率的にナノサイズの繊維にすることで、キッチン水を水に分散させることに成功し、キッチンの可用性を高めました。

私たちは最新の研究成果を活用し、科学的根拠を重視した製品開発と用途展開を行っています。現在は、化粧品やペットケア製品を中心に拡販が続けています。ペットケア製品は動物病院を顧客としており、ブランド名の変更を行い新製品を発売いたしました。この素材の効果を解明し、困っている人々の助けになることが私たちの目標です。



■ KJケミカルズ(株) 機能性モノマー「Kohshylmer®」X-1（仮称） 機能性オリゴマー「Quick Cure®」8400

KJケミカルズでは、UV硬化プロセスなどに使用可能な新たな機能性モノマーおよびオリゴマーを開発しました。

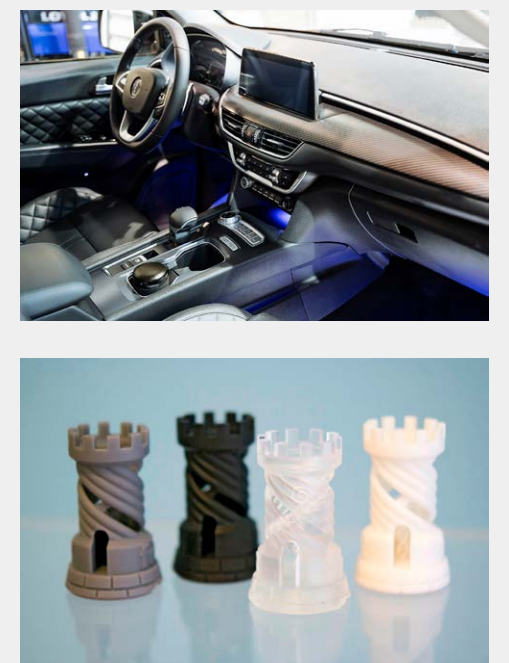
機能性モノマー「Kohshylmer®」X-1（仮称）は、既存の単官能アクリルモノマーにはない、210℃以上の高Tg（ガラス転移温度）を有し、耐熱性、硬度、耐水性、耐溶剤性を付与できる一方で、耐屈曲性も高く、溶解性やUV硬化性にも優れています。これにより、耐熱性が求められる電子部品や自動車用途への展開が期待されます。

機能性オリゴマー「Quick Cure®」8400は、他社にはないアクリルアミド構造を有する二官能ウレタンオリゴマーであり、高い強度、硬度を有しながら柔軟性にも優れているため、アイゾット衝撃強度※などの強靱性を付与できます。これにより、3D造形樹脂やコーティング用途での採用を目指しています。

さらに、多様な顧客ニーズに応える製品開発を加速させるため、2024年末に新たに和光研究所を開設しました。

今後もアクリルアミド誘導体に関する豊富な知見と技術蓄積を生かし、機能性材料のラインナップ拡充に注力していきます。

※材料の靱性（衝撃に対する耐性）を定量的に示す指標です。



R&D、知的財産投資

「くらしをこちよく、みらいをあたらしく」のミッションにある通り、私たちの製品は印刷物、段ボール等に姿を変えて快適な暮らしを支えています。そして、環境を守り、未来の生活を豊かにする新素材の開発を通じて、持続可能な未来を実現します。

研究開発方針

地球温暖化、環境汚染、化石資源枯渇など現在地球が直面する様々な環境問題は、私たちの経済活動が要因となって発生しています。企業自身が持続していくためにも、ビジネスモデルそのものが持続可能な社会に向けたものでなくてはなりません。そのような社会背景において当社は、IT技術を積極的に活用することで、①環境負荷の低減・省エネルギー、②資源の効率的な利用と循環、③脱石油・バイオマス資源の有効活用を達成し、資源を大切に活用した持続可能な未来の実現に貢献していきます。

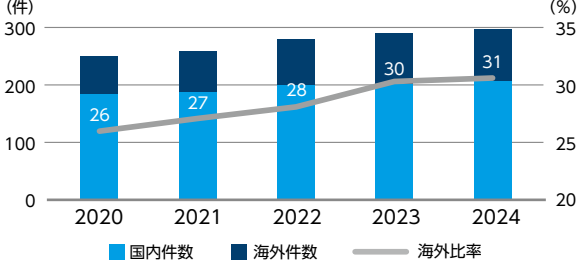
データ

研究開発に関連するデータは以下の通りです。特許件数においては、特に海外知財の比率を高めるよう努めています。また、研究開発に力を入れており、研究開発員は対従業員比率で20%以上を維持しています。

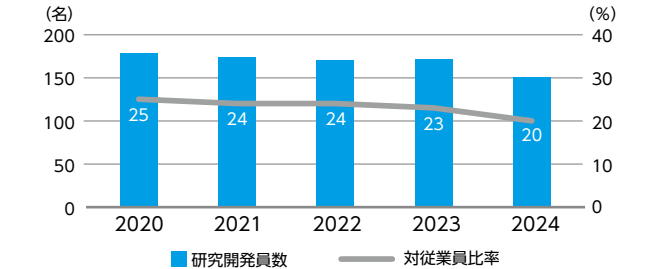
国内研究開発拠点



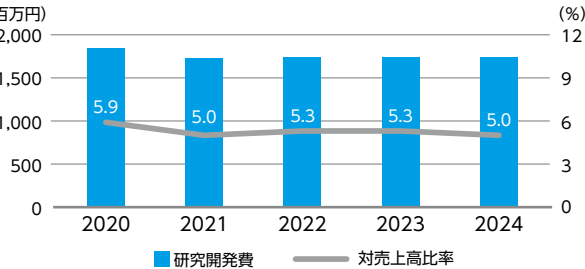
当社グループ保有特許件数と海外比率



当社グループ研究開発員



当社グループ研究開発費



知的財産部トピックス

知的財産情報の研究開発への活用

CHEMIPAZ知的財産部は、製品やサービスが市場において優位かつ高収益を生む源泉となるうえで必要な、研究開発成果の出願・権利化や他者知財への対応策検討に代表される、当社の知的財産戦略上の重要な業務を担っています。

2024年度は上記の取り組みに加えて、知的財産情報の研究開発への活用の一環として、知的財産部と研究開発部門とが一体となって知的財産情報や市場情報を総合的に分析し、中期経営計画Action2028の実現に向けた事業化提案を行うIPランドスケープ実践活動を推進しました。

今後は、研究開発部門だけでなく営業部門など他の部門とも連携して、IPランドスケープを全社横断的に普及・深化させ、事業化達成による企業収益への貢献を目指します。

社員の知財リテラシー向上に向けた取り組み

CHEMIPAZ知的財産部は、社員の知的財産に対する理解・関心を深めるために、定期的な知財セミナーの開催や、社内ポータルサイト「知財部ゼミ」において知的財産権に関するeラーニングコンテンツの提供を行っています。

また、日本知的財産協会や日本弁理士会を通じて、知的財産に関する様々な最新情報を入手し、知的財産教育に活用しています。

さらに、社員のモチベーション向上を目的に、eラーニング受講者に対する表彰制度を設けています。

今後も社員の知的財産権へのリテラシー向上に向けた様々な施策に取り組んでいきます。

社外発表・講演実績

タイトル	著者・講演者	学会・雑誌
製紙プロセス改善のための新規ポリアクリルアミド共重合体の開発	山戸 海里	紙パ技協誌 第78巻第11号
銀ナノワイヤの特性と応用	井上 泰成	コンバーテック2024年11月号
画像技術を支える高分子の基礎 (IV) —コアシェル型ポリマー	森本 幸嗣	日本画像学会誌 第63巻第5号
インクジェット用水性顔料インクに用いる樹脂の物性とその選択指針	森本 幸嗣	サイエンス&テクノロジー社「インクジェットインクの最適化千態万様[進歩版] ～プリントシステムおよびインク技術の進歩と展望～」
高バイオマス率で生分解性のコート剤 SEIKOAT®-G シリーズ	松島 輝幸	紙パルプ技術タイムス7月号

機械学習ツールの導入

CHEMIPAZでは機械学習などデータサイエンスの活用に取り組んでいます。プログラミング不要の機械学習ツールを導入し、社内で活用事例を共有する取り組みを行っています。

データサイエンスは、新規化合物の探索、時間のかかる実験の工数低減、品質管理、過去の実験データの活用など幅広い分野に適用可能です。

データサイエンスは専門知識が必要な分野でしたが、最近ではプログラミング無しで最新の技術を活用できるようになっています。データサイエンスで「何ができるか？」活用事例を共有し、研究開発を加速させる取り組みも並行して実施しています。

研究のネットワーク

自然科学分野では、自然界からの学びや他分野からの技術融合によって技術革新が促進されてきました。

CHEMIPAZグループは、製紙用薬品・印刷・電子材料・複合材料・ライフサイエンスなど、幅広い分野で研究開発を行っています。他分野の研究員間の意見交換によって研究開発を加速させるために、社内での研究員の交流を深める研究発表会を行っています。

また技術だけではなく、ニーズ側からビジネスを探索する取り組みも行っています。全社員から希望者を募り自由闊達な議論を行いビジネスシーズを生み出す取り組み「ワイガヤ」も定期的を開催しています。

VOICE

研究開発と人工知能

人工知能（AI）が人間を超える日は近いという意見がありますが、個人的には、AIは人間の能力の一部をすでに超越しているものの、全ての能力を追い越す日はまだまだ先のように感じています。

AIは数式に基づく技術であり、想定された領域内での処理に特化しています。新しいものを作り出す研究開発は、AIにとっては領域外への挑戦です。しかし、情報収集や文章校正、要約などのタスクには、生成AIを普通に使用するようになりました。また、実験においても内挿領域、例えば配合最適化などでは、機械学習が非常に有効です。これまでは個人的な経験やノウハウといった暗黙知であった事象も、次第に形式知に変わっていくと考えています。

世の中のニーズに合った新製品を作り出すアイデアを出すなどの外挿領域は、今はまだ人間にしかできないと思います。人間の苦手なことはAIが行い、人間は人間にしかできないことを頑張る。これが現時点での最適解だと私は考えます。



CHEMIPAZ(株)
技術企画部
外城 稔雄

HRポリシーの策定

CHEMIPAZ(株)では、社員と会社が成長し続けるために、以下のHRポリシーを定めました。
HRポリシーは、今後人事制度が会社の成長にあわせ改定されたとしても、変わることはない人事における大事な幹となる考え方です。その内容は、当社グループが掲げるMVVを下敷きとして作成されています。

マネジメント	マネジメントにとっての最も重要な仕事は、メンバーの成長を通じた組織の成長です。マネジメントは、常にそのことを意識し、自らも学び、成長を心掛け、組織を運営します。マネジメントは自組織を、メンバーの信頼を得て運営します。組織構造は、可能な限りレポートラインを明確化し、おのおのの組織目標を明確にします。また、可能な限り、決裁権限をその責任と共に委譲します。
処遇 グレード・報酬	Pay for Performanceの考え方のもと、社員個々の処遇は、年齢や年功、性別によらず、その人の担う仕事の大きさと、成果、評価に基づいて決定することで、社員の努力に報います。
評価	組織目標をシェアする業績評価だけでなく、社員一人一人の「求める人材像」に基づいた行動や取り組みも評価します。評価の運用、処遇への反映にあたっては、公平・公正であること、対話と複数主観を重視し、社員の理解が深まるようオープンに制度内容を公開・周知します。社員一人一人をしっかりと見ること、社員がしっかりと見てくれていると感じられることを大事にします。
育成	会社の成長は、社員の成長にかかっています。社員の成長を促し、支援することに努力し、社員の「成長したい」という意欲、挑戦を、会社は最大限応援します。Off-JTである研修は重要ですが、仕事の場でのチャレンジにこそ、成長の鍵があります。「成長したい」という意欲のある社員には、チャレンジの場を積極的に用意します。チャレンジしたことによる失敗はマイナスとはしません。

HRポリシーのもと、2024年度から、以下の取り組みを開始しています。

人的資本投資		経営・従業員へのインパクト
教育投資	教育研修費体系の整備と、教育研修費増加	マネジメント力向上、従業員のスキル向上による経営戦略の着実な実行
人材の見える化	タレントマネジメントシステム導入	最適な人員管理の実現
人事制度見直し	2025年度からの新制度実施に向けた検討	Pay for Performanceの実現
エンゲージメント向上	年1回のエンゲージメント調査	部署別、年齢別分析に基づいた人的課題への対応

採用活動

概要

CHEMIPAZでは、持続的な成長と競争力の維持・向上のため、多様な人材の確保に注力しています。

新卒採用においては、高校卒業者から大学院修了者まで幅広い学歴層から人材を募集しています。それぞれの教育課程で培った知識や視点を、当社の新たな価値創造に活かしていただくことを期待しています。

また即戦力となる人材の確保を目指し、中途採用も行っています。様々な業界での職務経験やスキル、異なるバックグラウンドを持つ方々を採用することで、組織の多様性を高め、イノベーションの創出につなげていきます。

昨今の人材獲得競争が激化する中、従来の対面型の面接に加え、オンライン面接も活用し、環境変化に対応した採用施策を展開しています。今後も人材の確保・育成を通じて、企業価値の向上に努めていきます。

採用・退職データ（単体）

		2022年度	2023年度	2024年度
新卒採用者	男性	6人	4人	5人
	女性	3人	2人	5人
	全体	9人	6人	10人
新卒採用者 3年後の定着率	男性	62.5%	75.0%	77.8%
	女性	100.0%	75.0%	50.0%
	全体	76.9%	75.0%	66.7%
中途採用者	男性	2人	3人	9人
	女性	0人	3人	1人
	比率	18.2%	50.0%	50.0%
退職者人数 (自己都合)	男性	8人	10人	14人
	女性	2人	1人	5人
	全体	10人	11人	19人
自己都合 退職による 離職率	男性	1.9%	2.5%	3.6%
	女性	2.8%	1.4%	6.7%
	全体	2.1%	2.3%	4.1%

学生のキャリア形成支援

当社では、学生が実際の職場を体験し、将来の職種選択に役立てることを目的に、高専生および大学生、大学院生を対象としたインターンシップを実施しています。

2024年は高専生向けに5日間の研究開発および生産に関する実践的なプログラムを提供し、実務経験を通じて、具体的な職種理解を図りました。また大学生および大学院生向けには1日コースと3日間コースを設け、研究開発職志望の学生に対し、業務内容や必要なスキルを体験的に学ぶ機会を提供しました。

当社は、インターンシップを通じて学生の職業理解を深め、職種選択をサポートすることで、学生のキャリア形成支援に貢献していきます。



総務統括部長メッセージ（就活生の皆さんへ）

変革を推進するのは皆さんです！ 時代の変化やニーズをとらえ、変革を拒む要素を排除し、変化に向けてこれまでの信条や価値観を短時間で転換する。現在当社はそういった状況に置かれており、推進力のある若い力を求め、これに合致した人材の採用を中途・新卒問わず進めています。

また学生の皆さんのキャリア形成支援、入社後のスキルアップを目的とした研修など、多様性を重視したタレントマネジメントも実施しています。変革に困難はつきものですが、個人もCHEMIPAZも成長していく、そんな過程と一緒に楽しんでいけるような人材を熱望しています。価値のある時間を共に過ごしてみませんか！



CHEMIPAZ(株)
総務統括部長
鶴田 顕一

人材育成

■ 長期的視点に基づいた経営基盤強化を実現する人材育成

CHEMIPAZは、HRポリシーに則り、人材育成を行っています。データにある通り当社では勤続年数が比較的高い傾向にあります。そのため中長期のキャリアの中で各段階にあわせた研修を実施しているほか、グローバル人材育成やダイバーシティ推進等、テーマ別の教育研修を行うことで経営基盤強化に繋がる人材育成を行っています。

■ 各種教育・研修制度

当社では、内定段階から管理職に至るまで、各種教育・研修の制度を設けています。昇格のタイミングで各階層に必要なスキルを学ぶ階層別研修では、若手社員は課題設定と周囲の巻き込みについて学び、管理職一步手前の層では業務マネジメント力やファシリテーション力の強化に繋がる研修、管理職層にはマネジメント力向上に繋がる研修を行っています。また、グローバル人材育成のため、自由応募の英語集中研修や外国籍社員向けの日本語研修、海外赴任者向け語学研修も行っています。

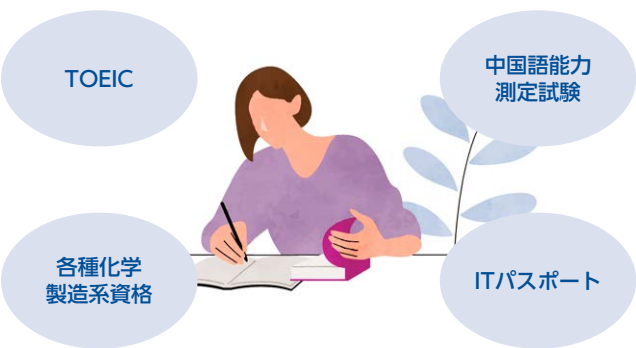
基本データ（グループ）				
従業員数	男性	2022年度 610人	2023年度 614人	2024年度 608人
	女性	130人	145人	147人
	全体	740人	759人	755人
平均勤続年数	男性	17.5年	17.7年	18.2年
	女性	10.4年	10.4年	10.9年
	全体	16.2年	16.3年	16.8年



	階層別研修	知識・スキルアップ	その他
管理職		目標管理・評価者研修 360度フィードバック研修	
	管理職昇格者研修	1on1研修	
一般職	各階層での昇格者研修		女性向けキャリア研修 新入社員フォロー面談
		メンター研修 中級英語研修 外国籍社員向け日本語研修 赴任者向け語学研修 ハラスメント研修 コンプライアンス研修	社内インターン 他事業所体験研修 外国籍社員受入研修
全社員		コミックラーニング（情報セキュリティ、DEI推進）	通信教育

■ 自己啓発支援

前述の各種教育・研修制度に加え、従業員個人が主体的に能力開発・向上を目指すことおよびリスキリングを支援するため、各種スキル（語学、法律、品質管理、専門技術など）を中心とした「通信教育制度」を設けています。さらに業務に有用な資格を取得した場合の奨励金やその資格取得に要した費用を補助するための「資格取得奨励金制度」を設けています。



資格取得奨励金制度の対象（一部）

■ 専門性を高める仕組み・教育

当社研究所では、基本的にOJTで人材育成を行っていますが、相互に学びあうための勉強会や知的財産部が中心となって作成したeラーニングなどで学びを深めています。また、日ごろの研究成果を社内に発信する研究発表会は研究所以外にも工場や本社、営業所からも参加者が訪れ、それぞれの視点から、研究成果について議論が交わされています。他にもグループ全体の研究発表会であるSP EXPO、未来創造会議といった催しも行われており、研究成果やノウハウが共有されています。

当社SEQ本部では、安全衛生の項目（P.45-46）に記載があるように、安全や改善活動、製造に関する教育を行っています。また、若手社員向けには労働災害防止とプレゼンスキル向上を目的とした若年層研修を行っているほか、上級・班長・現場長には、リスクアセスメント、指導教育の進め方、静電気対策等現場で起こりやすい事象と対策についてのオリジナルの内容での研修を行っています。

そのほか、他事業所研修という取り組みでは、他事業所の仕事を半年間経験できる機会があり、研究所－工場間でも人材交流が行われています。

■ 社内インターン

当社は、部門間の相互理解を深め、社員の成長機会を創出する「社内インターン制度」を2024年に導入しました。初回実施では、管理部門がホストとなり、複数部門から若手社員が参加しました。満足度は5段階評価で4.8と好評で、参加者全員が「他部門でも参加したい」「同僚に勧めたい」と回答するなど、予想以上の手応えを得ることができました。参加者からは「工場間で業務の進め方が違うことに気づいた」、「採用活動に興味湧き、将来携わってみたい」といった声が寄せられ、日常業務では得られない視野の広がり生まれています。また、「AIの活用可能性や限界について実践的に学べた」、「他部署から依頼される業務の背景が理解でき、自部署での仕事の質向上につながった」など、具体的な業務改善のヒントも得られています。そんな中、静岡工場業務課の取り組みが注目を集めました。同課では以前から業務の属人化解消と若手育成を目的としたジョブローテーションを進めており、その結果として3名もの社員を社内インターンに送り出すことができました。誰もが全ての業務をカバーできる体制づくりが、図らずも新しい制度への積極的な参加を可能にしました。この相乗効



果は、若手社員の成長や業務改善の活性化にもつながっています。

2025年度も募集枠を大きく上回る応募があり、社内インターン制度への期待の高さが表れています。今後も製造、営業、研究開発など様々な部門での実施を計画しており、社員一人ひとりの視野拡大とキャリア形成支援に積極的に取り組んでいきます。

働き方改革への取り組み

■ 年次有給休暇・育児休暇の取得率向上、時間外労働の削減

CHEMIPAZグループは、次世代社員や女性社員をはじめとする全社員がその能力を最大限に発揮し続けることができるよう、ワークライフバランスの向上を目的として、働きやすい雇用環境の整備に取り組んでいます。CHEMIPAZの24年3月までの一般事業主行動計画には、次の目標を定めています。

1. 年次有給休暇の取得状況を現状よりも改善し、取得率を70%以上とする。
2. 男性の育児休暇取得率を30%以上とする。
3. 多様な労働条件を整備し、活用を促進する。

■ 仕事と家庭の両立支援

CHEMIPAZでは、仕事と家庭の両立支援制度を設け、制度活用を呼び掛けています。女性社員の育児休業の取得率は100%となっています。男性社員の育児休業取得率も毎年50～70%と増加してきており、通常の育児休業取得に加え、

仕事と家庭の両立支援制度

法定を超える 育児休業制度

子供が2歳6か月になるまで育児休業取得可能

パートナー向け 育児休暇制度

子育てパートナー休暇制度
産後パパ育休制度

柔軟な勤務制度

介護・育児者向けの
時短・時差勤務、残業免除
テレワーク制度
フレックスタイム制度

配偶者同行休業

海外で勤務する配偶者に
同行可能
(1年～3年)

■ 働きやすさを支える各種手当



当社では、社員およびその家族が安心して暮らすことができる環境作りのため、住宅関連、家族関連の手当を充実させています。

- ・ **各種住宅関連手当**：住宅手当を支給するほか、会社事情での異動の際には借り上げ社宅の利用が可能です。また、住宅を購入された方にも、一定期間、手当を支給しています。
- ・ **家族手当**：子供の数にあわせて家族手当が支払われます。
- ・ **海外別居手当**：家族を日本に残して海外赴任をする場合、海外別居手当が支払われます。

VOICE 柔軟な働き方で予測不可能な日々を乗り切る

この数年で男性の育児休業取得やフレックス勤務が当社に広く馴染んできたと感じます。男性の育児休業取得については、取得するかを一度は考えたり、職場の人に聞かれたりするくらい、当たり前存在となってきたのではないのでしょうか。夫も第一子の時は取得していませんが、第二子の時は1週間ほど取得していました。

フレックス勤務は使ってみると、定時より1時間早く終業するだけで、病院へのかかりやすさが大きく変わることを実感しました。子供がいると自分の通院が後回しになることがあるため、とても助かります。これらのほかにテレワークや時間有休などの制度も活用し、予測不可能な日々を乗り切っています。



CHEMIPAZ(株)
管理本部
総務部 総務人事担当
大工 旬子

年次有給休暇取得率の推移（単体）

	2022年度	2023年度	2024年度
年次有給休暇 取得率	65.8%	70.8%	68.2%

年次有給休暇の取得率については、70%前後を維持し続けており、休暇を取りやすい環境となっています。年次有給休暇の取得状況を会社全体として把握し、社員へ計画的な取得を促すとともに、フレックスタイムや時差勤務等、様々な勤務制度の効率的な活用等も含め、男女ともに働きやすい環境の整備を継続していきます。

子育てパートナー休暇および出生時育児休業（産後パパ育休）制度も活用されています。今後更なる男性社員の育児休業取得率の向上に取り組んでいきます。

ダイバーシティの推進

CHEMIPAZグループは、多様な人材がそれぞれの個性を活かしながら活躍することで社内が明るく活気に溢れていることは、持続的な成長を実現するために重要な要素であると考えています。その考えのもと、失敗を恐れず自ら主体的にチャレンジする企業風土を醸成する一環として、グローバル人材の活用および女性社員の活躍推進に取り組んでいます。

■ DEI推進室の設立

CHEMIPAZでは、2024年5月にDEI推進室を設立し、女性活躍推進、グローバル人材の活躍推進、障がい者雇用の促進、働き方改革プロジェクトの実施を中心に活動しています。

■ 女性社員の活躍推進

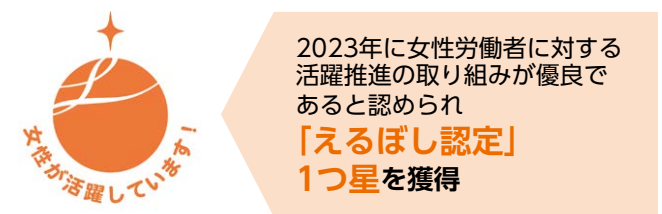
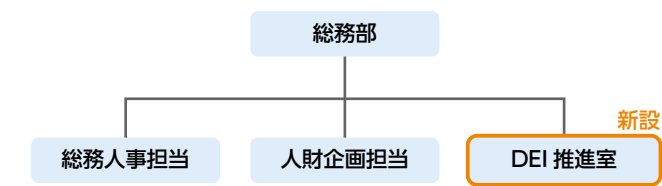
当社では、持続的な成長を実現するためには女性の活躍が不可欠であると考え、女性活躍推進に取り組んでいます。

2024年の取り組みとしては、「成長する組織のためのDEI」という講演会を行いDEI推進の基礎を全社員が学ぶ機会を提供しました。

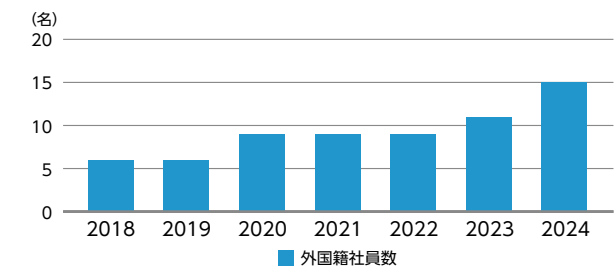
また、管理職一歩手前の女性社員向けにキャリア研修を実施し、ライフイベントの多い女性社員がキャリアについて考え、ネットワークを作る機会を提供しました。

■ グローバル人材の活躍推進

当社では、語学力・専門能力・高い向上心を有している日本の大学院を卒業した外国人留学生や海外で活躍する人材を中心に、グローバル人材を積極的に採用しています。今後は、異なる言語や文化的背景を持った人も働きやすい環境作りに繋がる研修を検討中です。



今後も、女性が働きやすい環境作りを行い、結果的に、えるぼし認定の維持・向上やくるみん取得等の各種認証取得に繋げていきたいと考えています。



社内コミュニケーション

■ 社内報システムの導入

当社ではエンゲージメント向上と社内コミュニケーションの活性化を目的として、定期的な社内報の発行を行っています。

2024年には社内報システムを導入し、社員のだれもが発信できる状況を作り出しています。これまでに、右記のようなトピックスが共有され、社内話題となりました。

社内報記事タイトルの一部

－ SEIKO PMC VIETNAM －
2024 社員旅行を実施しました！

消火技術競技大会 参戦しました！

企業型生成 AI リリースの件

社内インターン制度の今！！
～新たな挑戦と成長の機会～

CHEMIPAZ(株) 新入社員オンライン座談会

2024年4月にCHEMIPAZは10名の新入社員を迎え入れました。今回はその中から、職種や拠点の異なる5名に集ってもらい、この一年で得た経験や学び、各職場の雰囲気など、様々なテーマについて語ってもらいました。

同じ会社でも職種や部門により、仕事内容は様々

――まずは皆さんが現在どのようなお仕事をしているのか教えてください。

飯野：私は総務人事担当として働いています。私の業務としては、給与計算がメインですが、そのほかに社会保険関係も担当しています。また高専生の採用活動にも携わり、実際に説明会で説明員も行いました。総務人事担当は裏方として会社を支える役割です。働いている人に関する事務的なことの多くに総務人事担当が関わっています。

川尻：私は水島工場出荷業務を担当しています。例えば製品を小分けして様々なユーザーに出荷する作業や製品タンクから製品をローリー車に積み込んで出荷する業務を行います。私の部署は製品をお客様に出荷する重要な役割を担っています。製品を確実に期限通りに届けることは、お客様との信頼関係において非常に大切なことです。

初：私はプリンティング＆コーティング部で顔料分散用樹脂の開発に携わっています。顔料分散用樹脂の合成・評価が大きな仕事です。毎日赤や青など様々な色を使っていて、とてもカラフルな職場です。私の部署は特に海外売上を増やすべく、海外向けの開発に力を入れています。営業も頑張ってくれており、研究部門も良い製品を作ろうと奮闘しています。

三好：私は播磨工場で品質管理と物流の兼任をしています。物流は主に原材料の発注や書類整理、品質管理では製品の検査を担当しています。品質管理の発行するデータはそのままお客様に行くので、ミスはできない、非常に責任のある仕事だと思います。



塩島：私はアドバンストマテリアルズ部で、セルロースをプラスチックなど他の材料と組み合わせて、強い素材を作る研究をしています。日々素材を作り、その強度を測定・評価して、改良方法を考えています。部署のミッションは将来の売上の柱となる新製品

を開発することです。セルロースナノファイバーや銀ナノワイヤなどが将来の収益の柱として期待されています。

雰囲気や事業内容、待遇に魅力

――何故CHEMIPAZに入社を決めたのでしょうか？

三好：高専の説明会で当社を知りました。当社に母校出身者が多かったことで興味をもったのですが、最終的には工場見学をさせてもらい、雰囲気を見て決めました。

川尻：私も高専出身なので三好さんと似ています。説明会で色々な企業と出会い、その中で当社の求人票が目に残りました。最終的に給与面や福利厚生など比較して決めました。

飯野：私は理系大学出身で、幅広い職種がある化学メーカーに興味を持ちました。特に当社は職種別採用(初期配属)をしており面白いと思いました。手当や制度面が充実していたほか、会社の変わっていくとする姿勢に惹かれ選びました。

塩島：私は化学を専攻していたので、化学メーカー志望でした。面接で研究内容を説明した際、結構鋭い質問を受けました。そこで当社の技術に対する情熱を感じましたし、実力を評価してくれていると感じられたことが決め手でした。

初：私は薬学出身で、製薬と化学メーカーで迷っていましたが、技術面接の後に社員の方と面談の機会を設けていただき、その時に会社が海外に力を入れていることを知り、海外が好きな私はそれに惹かれました。

先輩社員の手厚いサポートと質問しやすい職場環境

――仕事の進め方、職場の雰囲気について教えてください。

塩島：仕事は一人でやることもありますが、基本的にチーム単位で動いており、上司や先輩は優しく教えてくれます。



私はプライベートで付き合いはないですが、仲が悪いわけではなく、仕事とプライベートの線引きができていている感じですね。

初：私も仕事はチームで動くことが多く、上司も先輩も優しく丁寧に教えてくれるので助かっています。年の近い先輩たちとご飯に行ったりもしています。

川尻：仕事中は皆さん真剣ですが、時には趣味の話が飛び交うこともあり、働きやすい環境だと思います。プライベートでは会社メンバーとフットサルを定期的に行っています。

飯野：職場は女性が多く、一緒に食事をして楽しく過ごしています。人事は各々で別の仕事を持っていますが、チェック業務が多いので、お互いチェックし合っています。チャットの活用が進んでいて、分からないことは都度質問しています。

三好：私は一人作業も多いですが、実験室には常に3人ほどいるので、分からないことがあればすぐに聞ける環境です。教育担当の先輩がいて話すのはその先輩が多いです。部署は少人数なので上司とも話やすく、業務外のことも話したりしますね。

学びの連続だった入社1年目

――1年目を振り返って、大変なこともありましたか？

三好：入社後の3ヶ月間は工場全体の業務に関する研修があり、覚えることがいっぱいで苦労しました。ただメンターの先輩が定期的に不明点を確認して、フォローしてくれたので大変心強かったです。

飯野：1年目は仕事の知識を徹底的にインプットする期間でした。会社の制度や社会保障制度など覚えることがいっぱいでした。先輩が何回聞いても嫌な顔せず教えてくれて、とても助かりました。最近は研修などで知識をアウトプットする機会も増えてきて、大変ですが、成長も感じられています。

川尻：私は短期間で前任者の仕事を引き継がなければならないことがあり、苦労しました。ただ上司が全体の仕事を把握しているため、親身に相談に乗ってくれました。わからないことはメモを取り、自分の中で優先順位をつけながら仕事を進めることで、乗り越えました。

塩島：印象に残っているのは、入社直後に携わったプロジェ



クトです。試しに検討したところ良い結果が出て、営業やお客様など様々な方とのコミュニケーションが必要になりました。技術的なことが分からず、先輩からアドバイスをもらいながら進めていましたね。このとき客先の実験施設を見学する機会をいただき、貴重な経験になりました。

初：私の場合、この一年で担当業務が三度変わったんです。扱う製品もそれぞれ違ったので、学ばなくてはいけないことがいっぱいで大変でした。ただ周りはベテランの方が多く、知識が豊富なので、たくさん助けてもらいました。

1年間の社会人経験を経て語る今後の成長意欲

――最後に今後の意気込みを教えてください。

三好：誰のサポートにでも回れる人材になりたいです。今は自分の仕事で手一杯ですが、新入社員が入ってきたら様々な仕事を教えられる立場になりたいです。自分から会話を積極的に行い、アットホームな環境づくりに貢献したいです。

初：現在はまだ製品のことを広く浅く知っている状態なので、

これから学びを深めて、もっと深く広く知識を習得していきたいと思います。特に私の部署では扱っている製品がとても多いので、それらについて技術的な理解を深めていきたいですね。

塩島：会社の全体像を詳しく見ていきたいと思っています。現在の部署は他部署との関わりが多く、それぞれの部署がどのように機能しているのか

気になっています。社内インターン等の機会を活用して、様々な経験をしていきたいです。

川尻：何でも自分で考えてスムーズに結論を出せるようになりたいです。上司が同じ人間とは思えないほど仕事ができる人なので、上司を目標に頑張りたいと思います。

飯野：今はまだ誰かに仕事を振られてルーティン的な業務をこなすことが多いですが、今後はどんどん自分から提案できるようになりたいです。まだ人事の仕事しか知らないなので、製品や技術のことなど、当社の事業についてもっと学んでいきたいと思っています。

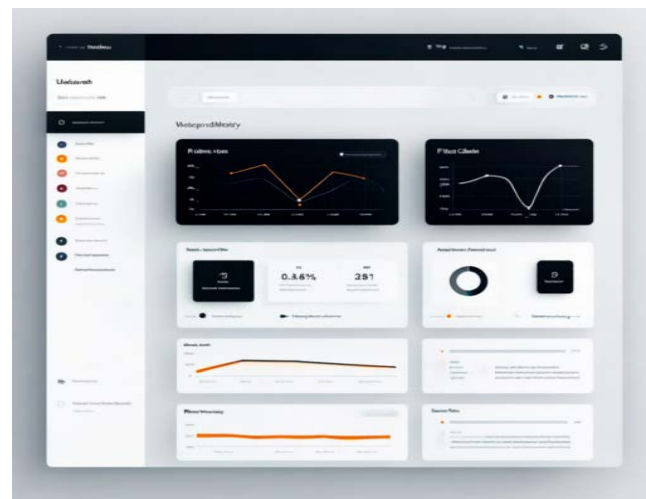
インタビューコメント

入社から一年が経過して、それぞれ違う職場・職種で多くの学びを得たようです。全員が口をそろえて語っていたことは、新入社員に対する上司や先輩からのサポートの手厚さでした。今後は今回のメンバーにも後輩ができて、自分が教える立場になっていきます。周りから頼られ、会社を牽引する人材になってくれる日もそう遠くないと思います。

情報システム

■ 生成 AI サービスのリリース

CHEMIPAZでは2024年11月に生成AIサービスを導入しました。業務効率化を目的に、製品情報や研究データなどの機密情報を安全に入力できる当社専用の環境を整備しました。チャット、文章要約、翻訳など業務に特化した機能により、「業務を進める上でAIが不可欠なパートナーとなっている」という声が多く寄せられています。今後は、社内の規程類や技術文書などをAIが参照し、それらの情報を基に回答を生成する機能（RAG：拡張検索）の開発プロジェクトを開始する予定です。この機能により、「この手続きに必要な申請書類はどの規程に記載されていますか」「この案件に関する過去の事例は」といった質問に対して、社内文書を踏まえた正確な回答が得られるようになります。継続的なプロジェクトの実施により、さらなる業務効率の向上を目指しています。



(イメージ)

■ サーバのクラウド移行

CHEMIPAZでは2024年度、本社のファイルサーバや各種システムをクラウドへ移行しました。このクラウド移行を基盤として、グローバル展開の強化に向けた次のステップを進めています。その一環として、海外拠点のネットワーク環境の見直しに取り組んでおり、セキュリティを当社と同等レベルまで強化することを目指しています。これらの取り組みにより、CHEMIPAZグループ全体でのネットワーク環境の改善と、セキュアなIT基盤の整備を進めています。今後もこのような環境整備を継続的にを行い、グローバルな事業展開を支えていきます。



VOICE デジタル変革で未来を創造する

情報システム部は全社情報システムの企画・運用を通じて業務効率化とデジタル変革を推進し、安定的なITインフラの提供により事業継続性の確保に努めています。主な業務は、システムの企画・開発・運用保守までの一貫したマネジメント、ITインフラ整備・運用管理、情報セキュリティ対策の推進、ITサポートおよびデジタル化支援です。

近年はクラウド移行によるコスト削減、テレワーク環境の整備や情報セキュリティ教育を実施してきました。DX推進においては工場部門と協力し、作業工数削減や消耗品コストダウンという具体的な成果を上げる事ができました。他部署との交流を通じて、継続的な情報収集が改善の鍵だと実感しています。

今後もDX、セキュリティ強化、システム基盤最適化に取り組み、当社MVVの「くらしをこころよく、みらいをあたらしく」に沿った未来型業務を提案する取り組みを続けてまいります。



CHEMIPAZ(株)
管理本部
情報システム部
金村 泰敬

社会貢献

■ SDGs パートナー登録制度の活用

当社グループの地方創生SDGsへの取り組みを推進し、事業所の属する各自治体と連携していくために、パートナー登録制度への加入と、登録地域に貢献する各種取り組みを行っています。登録拠点は右記のとおりです。

- ・ちばSDGsパートナー登録制度
(CHEMIPAZ(株) 千葉工場・千葉研究所・市原研究所)
- ・倉敷市・高梁川流域 SDGs パートナー制度
(CHEMIPAZ(株) 水島工場)
- ・あかしSDGsパートナーズ登録制度
(CHEMIPAZ(株) 明石事業所)
- ・熊本県SDGs登録制度
(KJケミカルズ(株) 八代工場)



©2010 熊本県くまモン

■ 各種ボランティア活動

～北海道ジュニアドクター育成塾への協力～

当社グループは、地域社会への貢献を大切にしています。その取り組みの一つとして、旭川工業高等専門学校が開講している将来の科学技術を担う人材育成プロジェクト「北海道ジュニアドクター育成塾」に協力し、「水で中身が濡れない段ボール」の開発を行う中学生を支援しました。



CHEMIPAZ 千葉研究所の所員が学生からインタビューを受け、技術的なアドバイスの他、目的に適した製紙用薬品を提供しました。当社では、若い世代が科学技術に興味を持ち、将来の研究者として成長できるよう、支援を続けていきたいと考えています。これからも様々な社会貢献活動を通じて、より良い社会づくりに貢献していきます。

社外への情報開示

当社グループでは、以下のメディアを通じてステークホルダーの皆様との迅速かつ適正なコミュニケーションを行っています。是非、今後の情報取得にお役立てください。

HP :
CHEMIPAZ株式会社
<https://www.chemipaz.com/>



KJケミカルズ株式会社
<https://www.kjchemicals.co.jp/>

株式会社マリンナノファイバー
<https://www.marine-nf.com/>

各種SNS :

CHEMIPAZ :
X (旧Twitter)



Linkedin



(英語)

KJケミカルズ :
Linkedin



(英語)

マリンナノファイバー :

X (旧Twitter)



Facebook



LINE



Instagram



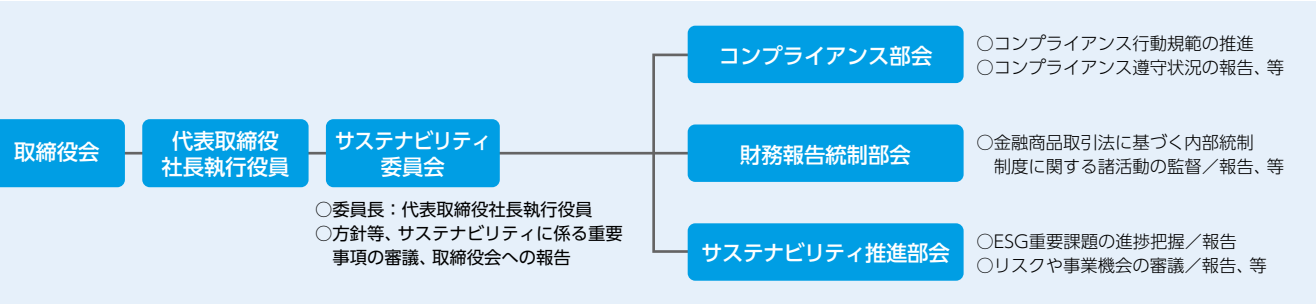
TCFD (気候関連財務情報開示タスクフォース) 提言に基づく情報開示

CHEMIPAZは、2022年 4 月にTCFD提言への賛同を表明しました。気候変動への対応を重要な経営課題と認識し、急速に進行する脱炭素社会への移行をリスクだけでなく機会と捉えることで、中長期的な企業価値向上に取り組んでまいります。



ガバナンス

当社グループは、気候変動対応を含む「ESG（環境、社会、ガバナンス）重要課題」を特定し、サステナビリティ委員会で重要事項を審議しています。同委員会は審議結果を取締役会へ報告することで、取締役会の監督が適切に図られる体制としています。また、ESG重要課題の実行機関として、以下の3 部会を設置しており、気候変動への対応を含む各種リスクや事業機会の把握、対応策の審議等を行っています。



戦略

当社グループは、P5-6に記載のある「ESG重要課題」の達成に向けた戦略が、脱炭素社会への移行計画に該当すると考えています。TCFD提言が推奨する、複数の気候シナリオでの分析のため、気候変動に関する政府間パネル（IPCC）の第6次評価報告書（AR6）や、国際エネルギー機関（IEA）のWEOなどを参照し、2℃未満シナリオにおける移行リスクや機会、4℃シナリオにおける物理リスクや機会を分析しました。主要なリスクや機会は以下の通りです。

リスク／機会の項目			対応（策）
移行リスク （2度未満シナリオ）	政策および法規制	・カーボンプライシングの導入による製造コスト増（2024 年の GHG 排出量 [Scope1+2] 28.4 千 t ベースで 2.3 億円）や原燃料コスト増。 ・低炭素設備への置換等の投資費用増。	・製造工程の抜本的な省エネ化をはじめとするエネルギー基盤強化。 ・新技術創出による高付加価値製品の拡販。
	技術	・バイオマス活用等の環境配慮技術開発の遅れに伴う製品競争力の低下。	・素材全般に関する情報収集の強化。 ・オープンイノベーションの推進。
	市場	・エシカル消費拡大に伴うユーザー市場の縮小。	・事業ポートフォリオ改革の推進。
	評判	・ユーザーから気候変動対応が不十分と評価されることによる企業ブランドの低下。	・太陽光発電設備や社内炭素価格の導入、グリーン電力の購入推進等による GHG 排出量の削減促進と情報開示の充実。
物理的リスク （4度シナリオ）	急性	・自然災害の増加・激甚化に伴う工場操業率の低下やサプライチェーンの分断。	・BCP 対応の強化。
	慢性	・森林由来資源や原燃料の供給不安定化／コスト増。	・重要原料については複数地域での 2 社購買の検討。
機会	製品とサービス	・脱プラスチック・紙化ニーズの高まり等に伴う環境戦略製品の需要増。	・紙力増強剤、紙用コート剤等の拡販。
	市場	・石油由来樹脂からの転換ニーズの高まりに伴うバイオマス由来樹脂市場の拡大。	・ナノファイバー製品の拡販。

シナリオ分析の前提

設定シナリオ	2℃未満シナリオ	4℃シナリオ
参照シナリオ	IPCC AR6 の SSP1-1.9 シナリオ IEA WEO 2021 の SDS（2℃未満シナリオ）	IPCC AR6 の SSP5-8.5 シナリオ
分析対象期間	2030 年まで	2030 年まで
カーボンプライシング	8,000 円／t-CO ₂	—

※IPCC; Intergovernmental Panel on Climate Change（気候変動に関する政府間パネル）

※IEA; International Energy Agency

※WEO; World Energy Outlook

リスク管理

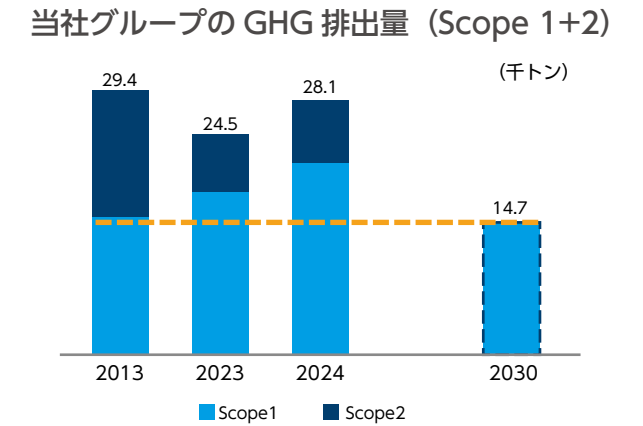
当社グループは、全社的内部統制に関連して全BU長／本部長、グループ会社の長等に対し、リスク認識調査を実施しています。気候関連リスクの識別と評価は、当社グループのリスクマネジメント体制に統合されており、サステナビリティ推進部会が管理しています。

指標と目標

① 温室効果ガス（GHG）排出量

世界的に脱炭素社会への移行が加速する中、当社グループ（海外子会社含む）は、政府方針（2030年までに2013年比46%削減）よりも踏み込んだ、「2030年までに2013年比GHG排出量50%削減（Scope 1+2）」および「2050年カーボンニュートラル」を新たな目標として掲げました。目標達成に向け、8,000円/t-CO₂の社内炭素価格を設定・運用するとともに、GHG排出量削減計画を策定し、エネルギー基盤強化や太陽光発電設備の導入、グリーンエネルギー購入といった諸施策を通じて、GHG排出量削減に継続的に取り組んでまいります。

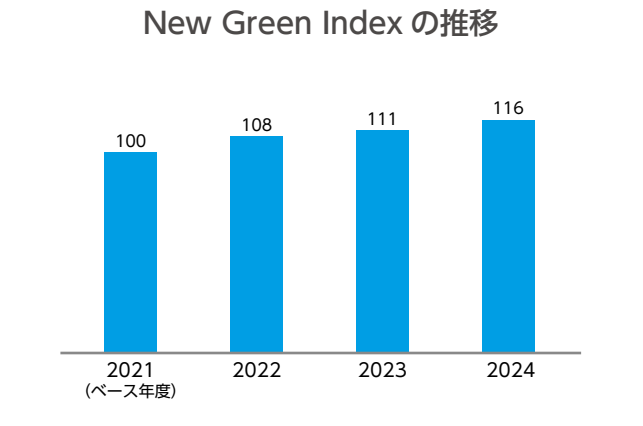
なお、2024年度の実績は28.1千トン（Scope 1+2、マリンナノファイバー除く）となり、2013年度対比4％削減（2023年度対比では生産量の増加により15%増加）となりました。目標達成に向け、今後更なるGHG排出削減努力を継続してまいります。



② 環境戦略製品売上高

当社グループはサーキュラーエコノミーへの取り組みを ESG重要課題の一つとして掲げています。持続可能な社会の実現に向けた当社グループの貢献を定量化するため、環境戦略製品を独自に選定するとともに、その2021年度の売上高を100として指数化した「New Green Index」を導入しました。当社グループは、当該指標を2024年度には130以上に、2030年度には225以上にすることを目標に、気候変動対応を含むサーキュラーエコノミーへの取り組みを進めています。2024年度の数値は目標に届かず、116となりました。

今後、指標および目標値の見直しも含め、製品を通じた環境貢献を実現していくための様々な方策を改めて検討してまいります。



製品を通じた環境貢献

古紙のリサイクル利用率・回収率で世界トップクラスを誇る日本で、CHEMIPAZは長年、製紙業界等への貢献を通じて環境保全に尽力してきました。例えば、乾燥紙力剤を製紙工程で利用することで、紙を再生利用できる回数が増え、「木」という資源を大切に使い続けることができます。

この他にもCHEMIPAZグループは環境や人に優しい製品を多数提供しており、それらを通じて社会へと貢献しています。

■ お客様の「エコ」と「安全」に貢献する製品群

CHEMIPAZグループでは独自の選定基準に基づき、環境に優しい製品を環境戦略製品として定めています。それらは環境に優しいだけでなく、お客様のエコな製品開発や作業環境の安全に貢献するものなど様々なラインナップがあります。

FCN 承認ロジンエマルジョンサイズ剤



食品接触用途の紙には、特に高い安全性が求められます。FAシリーズはFDAのFCN承認を得たロジンエマルジョンサイズ剤で、食品接触用途の紙にも使用可能です。FAシリーズの使用により様々な種類の紙に耐水性を付与することができます。

非フッ素系耐油コート剤



SEIKOAT®-G T-EF201は、有機フッ素化合物を使用しない耐油コート剤です。健康や環境への悪影響が懸念されている有機フッ素化合物を使用せず、さらにバイオマス原料の割合が95%以上（固形分中）です。人にも環境にも優しい製品であり、フッ素系耐油剤の代替として提案を進めています。

UV 硬化型粘着剤



アクリル樹脂を有機溶剤に溶解した溶剤型粘着剤は乾燥工程で発生する溶剤蒸気が、作業者の健康に影響を与えたり、環境汚染の原因となります。新綜工業股份有限公司では、この課題に対して、無溶剤のUV硬化型粘着剤を市場に提案しています。

バイオマスモノマー NOAM



KJケミカルズはバイオベース度が約72%のモノマー「NOAM」を開発しました。長鎖アルキル基を持つアクリルアミドで、優れたUV硬化性と基材への密着性を備えています。皮膚刺激性が認められていないため、高機能で高安全性が求められる環境配慮製品に適しています。

■ 抄紙工程改善剤 PMシリーズ

CHEMIPAZでは、紙力剤DSシリーズ（ポリアクリルアミド樹脂）の開発で培ってきた技術を活用して、抄紙工程改善剤PMシリーズを開発しました。PMシリーズを使用することで、製紙用薬品の定着向上や抄紙系の清澄化による紙・板紙の製造工程の安定化、さらにはGHG（温室効果ガス）を削減することが可能であり、拡販を進めています。

抄紙工程のなかで、湿紙（乾燥前の水分率の高い紙）を乾燥させるドライヤーパートは非常に多くのエネルギーを使う工程として知られています。乾燥に関わるエネルギーを削減するためには、乾燥前の湿紙水分率を下げるのが有効です。そのため抄紙工程には水分率を下げるために、湿紙から水を搾るプレスパートがあります。PMシリーズを使用することでプレス時の搾水性（湿紙からの水の抜けやすさ）が向上するため、後続のドライヤーパートにおける乾燥負荷を低減することが可能です。

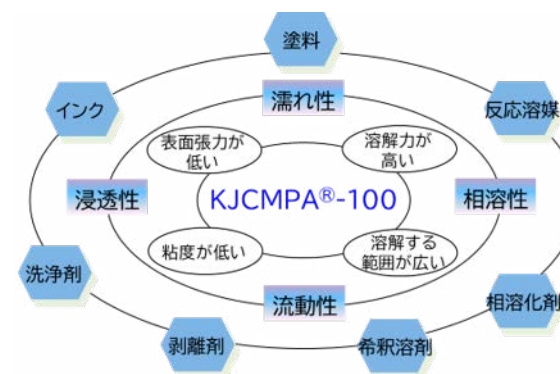
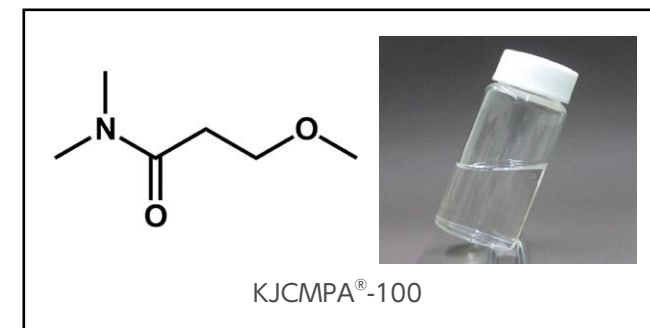


■ KJケミカルズ(株) 機能性溶剤「Kohshylvent®」KJCMPA®-100

KJCMPA®-100（3-メトキシ-N,N-ジメチルプロパンアミド）は、KJケミカルズが提供する無色透明の高性能溶剤で、幅広い極性の物質を溶解する能力を持っています。特に、フッ素系やポリアミドなどの難溶解性ポリマーに対して優れた溶解性を示し、ポリイミドやポリアミドのような絶縁材料の溶解にも適しています。従来の溶剤であるNMP（N-メチル-2-ピロリドン）やDMF（ジメチルホルムアミド）は溶解性に優れる一方、安全性に懸念がありました。しかし、KJCMPA®-100は優れた溶解性を持ちながら、皮膚刺激性が低く、安全性が高い溶剤です。

KJCMPA®-100の用途は多岐に亘り、塗料やコーティング、インクジェットインク、洗浄剤などにおいて重要な役割を果たしています。NMPと同等の沸点と粘度を持ちながら、接触角が低く基材への濡れ性が高いため、インクジェットインキ用溶剤として使用する場合、プリンターの吐出安定性やインキの貯蔵安定性、印字性の向上が期待されます。また、完全な水性システムでの使用も可能であるため、環境への負荷を軽減します。

KJケミカルズは、今後も高性能かつ環境に配慮した製品の開発を続け、持続可能な社会に貢献してまいります。



■ 水性バイオマスエマルジョン

CHEMIPAZの水性バイオマスエマルジョンは、水性バイオマスインキ用であり、従来の石油由来スチレンアクリル成分の一部をロジンや澱粉のような植物由来のバイオマス成分に置き換えたものになります。エマルジョン中のバイオマス成分の含有量は約30～90%です。

バイオマスインキは、再生可能な天然物を使用し、環境に配慮したインキであり、廃棄の際に燃焼したとしても地球温暖化の原因となるCO₂量が増加しない「カーボンニュートラル」の考え方に基づいています。

「バイオマスインキ」として認められるには、製品に含まれるバイオマス成分の含有量が10%以上（乾燥重量比）でなければなりません。その含有率はバイオマス度としてロゴマークに表示されます。企業は商品にバイオマスマークを表示することで、環境への貢献活動をPRし、ブランド力向上や購買意欲の促進を期待します。

現在採用となっている製品は、既に段ボールや紙袋の水性フレキシインキに使用されており、今後さらに使用量を増やしていくことで環境負荷低減に貢献していきます。

今後も印刷インキ性能の向上と環境負荷の少ないバイオマス原料の高含有化を目指した開発に取り組んでいきます。



環境保全

CHEMIPAZグループは、地球環境問題を重要な課題と位置付け、持続可能な社会の実現にむけて環境への影響に配慮した取り組みを継続的に推進します。

安全・環境・健康に関する方針

CHEMIPAZグループは、社会の一員として、また化学物質を製造・販売する企業として、安全・環境・健康の確保が経営の基盤であることを認識し、このことを事業活動のすべてに徹底し「持続可能な発展」の原則のもとに、生物多様性を含め地球環境等に調和した技術・製品を提供し、もって社会の発展に貢献する。

- ①製品のライフサイクルにわたり、安全・環境・健康に責任をもって行動する。
- ②安全・環境・健康の目的・目標を定めて、持続的な改善を図る。
- ③安全・環境・健康に係わる法律・規則・協定などを遵守する。関係法律が整備されていない国においては、安全操業優先・地球環境保護の観点に立ち行動する。
- ④安全・環境・健康の教育と訓練を計画的に実施する。
- ⑤安全・環境・健康を確保するために、体制を整備し、内部監査を実施する。

この基本方針は、社内外に公表する。CHEMIPAZグループ各社に対し、この基本方針に対応することを求める。上記に述べた「安全」には、保安防災を含む。

SEQ 本部の役割

CHEMIPAZのSEQ[※]本部は、当社グループの安全・環境、化学物質管理、品質管理を管掌する横ぐし組織です。

※ SEQとははSafety、Environment、Qualityの頭文字を取った略称です。

安全・環境担当

グループ全体の工場、研究所の労働安全衛生を管理/監督すると共に、今後ますます社会的要求が高まるGHG削減などの環境対応についても管理/監督しています。
また、安全意識向上や人材育成のための各種研修を企画/実行しています。

化学物質管理担当

安全・環境担当と連携して工場での化学物質管理など、化学物質に関わる管理業務全般を一括管理します。

品質管理担当

工場や研究所における品質管理を管理/監督する新たに設置された部署です。品質保証体制の構築にも取り組んでいます。

持続可能な社会の実現に向け、当社グループが目指す目標[※]

2030年目標：GHG排出量 2013年比 50%削減

2050年目標：カーボンニュートラル

※原単位の分母は生産数量です。GHG排出量はScope1+2（エネルギー起源、非エネルギー起源）の数値です。

Scope1：事業所自らによるGHGの直接排出（燃料の燃焼、工場プロセス）

Scope2：他社から供給された電気・熱・蒸気の使用に伴う間接排出

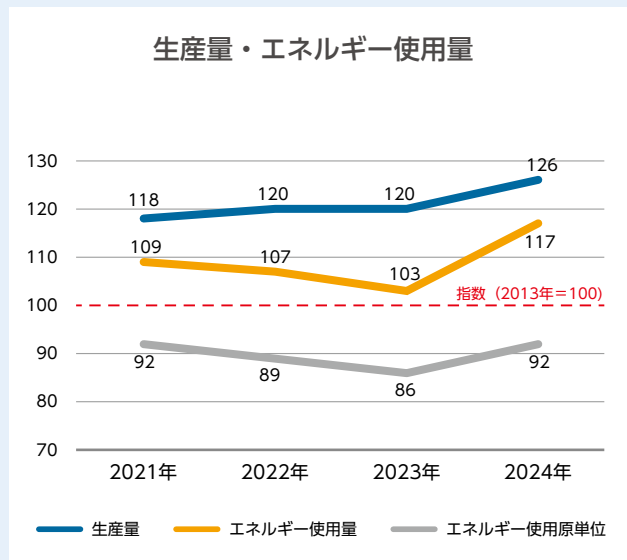
GHG排出量削減計画

1. エネルギー基盤強化
 - ・工場設備改造、運用見直し
 - ・製造（反応）工程の抜本的な省エネ化
 - ・省エネ活動
（原油換算エネルギー使用量 対前年1%削減）
2. 太陽光発電設備 導入
3. 燃料転換（重油・軽油→ガス化）
4. クリーンエネルギー購入

当社グループ 2024年度 生産量・GHG排出量・エネルギー使用原単位

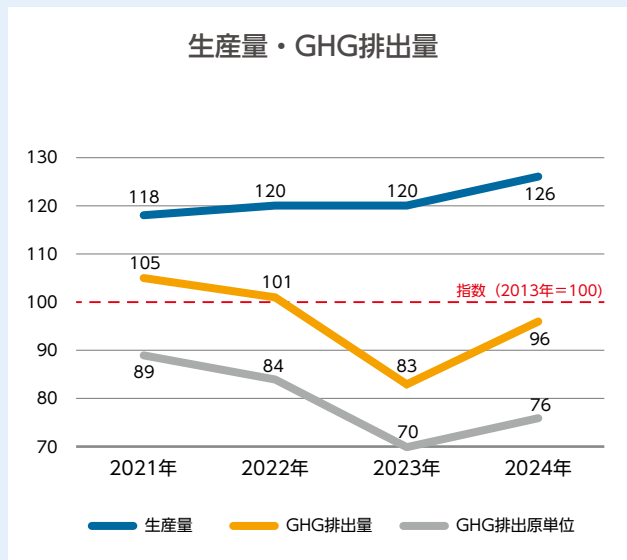
生産量・エネルギー使用量 グループ合計

2024年度は2013年度比で、生産量が26.4%増、エネルギー使用量も16.9%増となっています。対前年では、生産量の6.8ポイント増加に伴い、エネルギー使用量は14.2ポイント増加しました。



生産量・GHG排出量 グループ合計

2024年度は2013年度比、生産量が26.4%増となりましたが、GHG排出量は4.2%減となっています。対前年では、生産量の6.8ポイント増加に伴い、GHG排出量は12.3ポイント増加しました。



環境マネジメントシステムに関する認証取得状況

CHEMIPAZグループは、右表に示した事業所・グループ会社で、国際規格ISO14001の認証を取得しています。また品質に関する認証（ISO9001）も取得しており、取得状況についてはP.44をご覧ください。

工場名	ISO14001
CHEMIPAZ 竜ヶ崎工場	●
CHEMIPAZ 岩井工場	●
CHEMIPAZ 千葉工場	●
CHEMIPAZ 播磨工場	●
CHEMIPAZ 水島工場	●
KJ ケミカルズ八代工場	●
星光精細化工(張家港)有限公司	●

化学物質管理の取り組み

国内外での化学物質規制の整備・強化が進んでおり、当社グループを取り巻く化学物質の規制環境は大きく変化しています。各国での規制強化が進み、お客様からの化学物質に関する情報開示要請も一層厳格化しています。さらに、環境負荷低減と労働安全の観点から、化学物質の適切な管理は企業にとって不可欠となっています。

当社はこのような社会的要請に応えるため、資本構成の変更後も、迅速かつ正確な化学物質情報を管理・提供できる体制を整えるべく、新たな化学物質管理システムを導入しました。

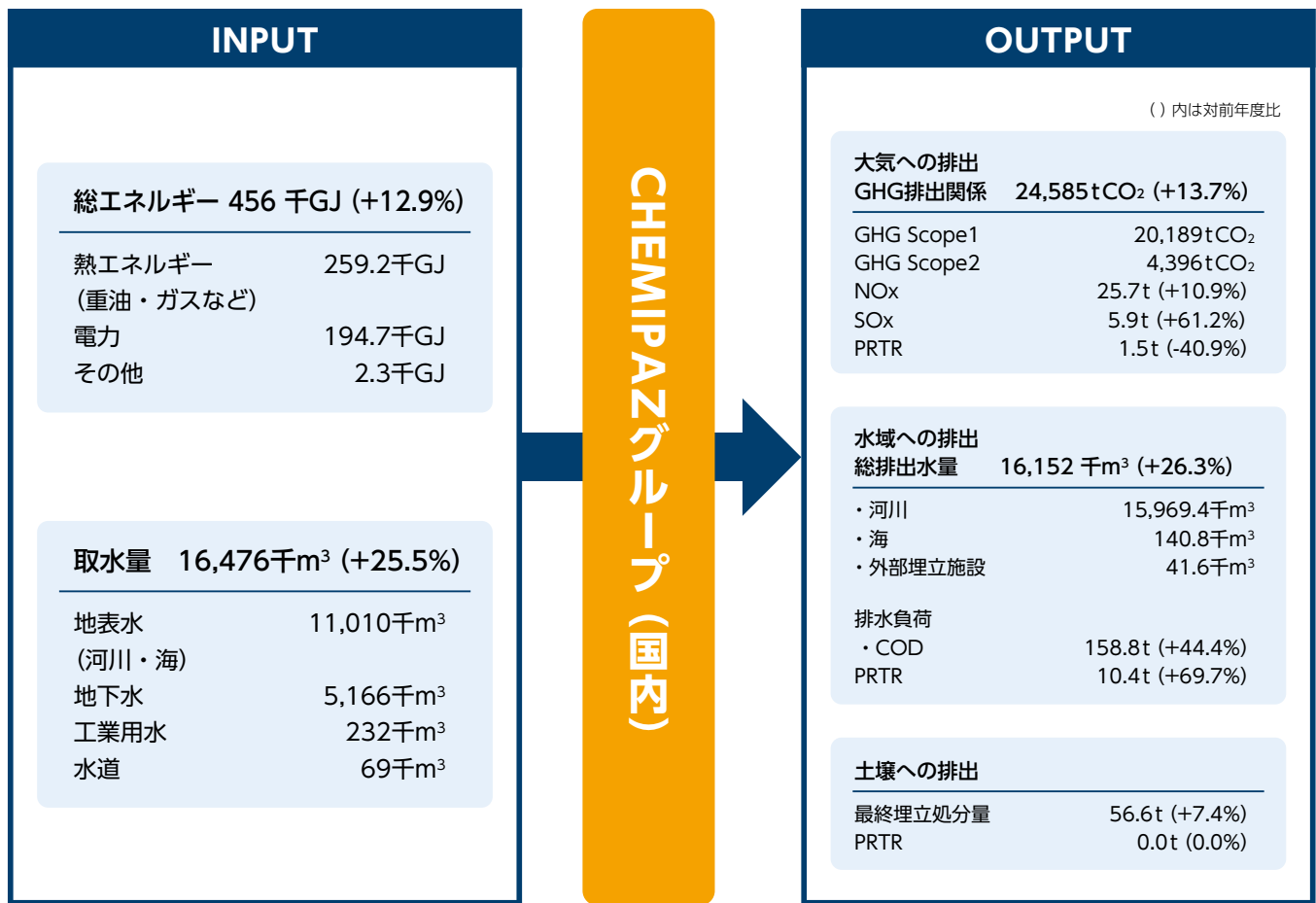
これにより製品ラベルや多言語対応の化学物質安全データシート（SDS）を引き続き提供できる体制を整えました。また、当社グループのコンプライアンス維持とグローバルな事業展開を見据え、国内外のグループ会社への同システムの展開も段階的に進めています。今後は、原材料や製品の社内での取り扱いから、お客様への情報提供に至るまでの化学物質管理への活用を計画しています。

当社グループは、化学物質を取り扱う企業としての社会的責任を深く認識し、法規制への確実な対応と化学物質の適正管理を通じて、お客様と社会の安全・安心の確保に継続的に取り組んでまいります。

■ 事業活動に伴う環境負荷

CHEMIPAZグループでは、事業活動に伴う資源の投入量（INPUT）、環境への排出量（OUTPUT）を定量的に把握することで、総合的・効率的な環境負荷削減の取り組みに活用しています。

下のデータは、当社グループ（国内）の2024年度の環境負荷の全体像です。INPUTとしてエネルギー使用量と取水量の2項目を、OUTPUTとしてCO₂排出量、NO_x排出量、SO_x排出量、排水中のCOD排出量、産業廃棄物外部最終埋立処分量の5項目をそれぞれ総量で表示しています。



※1 PRTR：Pollutant Release and Transfer Register の略。環境汚染物質排出・移動登録。化学物質が、どのような発生源からどれほど環境中に排出されたか、または廃棄物として事業所外に運び出されたかを把握・集計・公表する仕組み。

■ サークュラーエコノミーへの取り組み

CHEMIPAZおよびKJケミカルズでは適切な廃棄物処理を実現するため、産業廃棄物の管理システムを活用し、委託契約やマニフェストの管理を行っています。2024年には、これまで使用してきたシステムから、新たなシステムへの入れ替えを実施しました。新システムの導入により、各委託処理のリサイクル率などのより詳細な管理を行うことが可能となります。

これまでも当社グループでは、環境負荷低減に向けた取り組みとして、産業廃棄物として排出していた廃棄物について、資源として再利用可能な処理業者への委託処理に切り替えるなど、廃棄物削減に努めてきました。また、廃棄物処理法をはじめとする関連法令を確実に遵守し、適正な処理・管理を徹底しています。サーキュラーエコノミーの実現に向けて、今後さらなる取り組みを推進していきます。



品質

■ 品質方針

「私たちは、お客様や市場に信頼、満足していただけるよう、安定した品質の製品・サービスを提供すると同時に、品質の継続的な向上・改善に努めてまいります。」

■ 品質体制

CHEMIPAZグループでは、CHEMIPAZ単体およびグループ会社単位でお客様に提供する製品やサービスの品質に関して、各社の事業特性に応じた独自の「品質マネジメントシステム（以下、QMS）」を構築し運用しています。

当社の品質体制として、2024年10月に各ビジネスユニットから独立した品質統括部署として、SEQ本部内に品質管理担当を新設し、全社的な品質監督を実施しています。

品質管理担当は、品質目標の策定、品質目標の進捗管理、重要な品質課題への対応など、品質マネジメントの中核を担っています。また、各部門ごとに品質責任者を配置し、日常的な品質管理活動の推進や品質データの分析・評価、改善活動の推進など、各部門における品質管理体制の維持・向上を図っています。

■ 2024年度活動実績：DXの推進と品質監査の実施

1. DXの推進

品質管理業務の主要プロセスのDXを推進しています。量産化前レビューでは、関係部門による同時確認・承認を可能とするシステムを導入し各部門に展開中です。不適合品管理では、発生・発見から処置までの一連の工程を一元管理するシステムを導入し、順次展開を進めています。また、古い試験表発行システムを更新し、製品毎の規格、検査データ管理、試験表発行の効率化を実施しました。こちらも、各部門への展開を進めています。

2. 品質監査

国内外の全事業所を対象に、年1回の品質監査を実施しています。SEQ本部がQMSの運用状況について総合的な確認を行っています。監査では、品質目標の展開状況、製造工程における品質管理体制、検査記録の維持管理状況、従業員の教育訓練の実施状況などを重点的に確認しています。監査で発見された課題に対しては、3ヶ月以内に改善計画を策定し、6ヶ月以内の改善完了を目指します。特に重要な課題については、SEQ本部品質管理担当が直

接指導・支援を行い、確実な改善を推進しています。

また、改善状況については、定期のフォローアップレビューを通じて進捗を確認し、必要に応じて計画の見直しや追加対策の検討を行っています。これらの活動を通じて、グループ全体での品質管理レベルの向上と標準化を図り、継続的な品質向上に努めています。

3. 今後

今後は、新設したSEQ本部品質管理担当において、当社およびグループの品質管理体制をさらに強化するために、以下の取り組みを計画的に推進していきます。

- QMSの充実と改善
- 定期的な品質監査の実施と改善支援
- 品質教育の強化

これらの取り組みを通じて、当社グループ全体の品質向上を図り、お客様からより一層の信頼を得られるよう努めていきます。

■ 品質に関する認証取得状況

CHEMIPAZグループは、右表に示した事業所・グループ会社で、国際規格ISO9001の認証を取得しています。

工場名	ISO9001
CHEMIPAZ 静岡工場	●
KJ ケミカルズ八代工場	●
星光精細化工（張家港）有限公司	●
新綜工業股份有限公司 平鎮工場	●
新綜工業股份有限公司 觀音工場	●

安全衛生

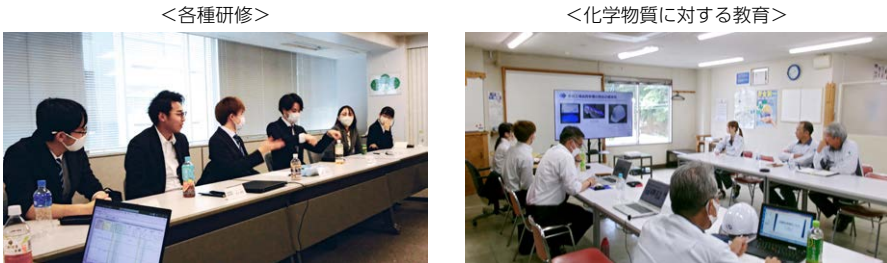
安全操業は、CHEMIPAZグループの持続可能な成長を支える事業の根幹です。
従業員一人ひとりが「安全第一」を共通認識として労働安全衛生・保安防災活動に取り組んでいます。

安全に関する取り組み

当社グループの生産領域は多岐にわたり、化学反応を伴う工程以外にも危険物・有害物や重量機器を取り扱う工程などがあります。ひとたび重大事故を起こせば近隣住民の方々をはじめ社会に重大な影響を及ぼしたり、協力会社を含む従業員に健康被害をもたらす可能性があります。

こうした事態をおこさないように、安全基本動作を徹底し、危険予知やヒヤリハット活動、リスクアセスメントに基づいたリスク低減活動、化学物質に対する教育、安全ニュース配信など、日々安全第一を意識した取り組みを実施しています。

また、日化協のケミカルリスクフォーラムやeラーニングなど、外部研修にも積極的に参加しています。

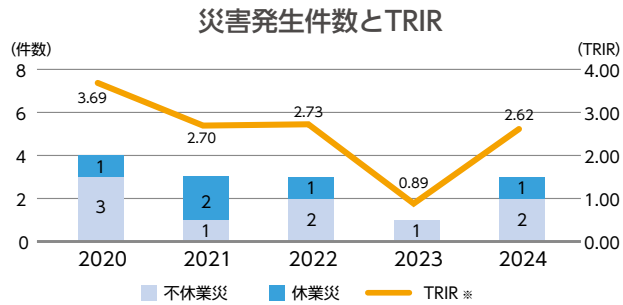


安全／保安防災に関する全社一律活動

1月	ルール教育の実施
2月	化学物質の被液対策
3月	行政手続き実施状況の確認
4月	若経験層への安全教育※
5月	熱中症予防・対策
6月	危険物の貯蔵・取扱い状況の確認
7月	安全装置の確認
8月	静電気対策
9月	安全の誓いの日実施
10月	腰痛対策
11月	職場巡視強化と改善の実施
12月	年末活動

※若経験層：若年層、異動者などの経験が浅い作業者

労働災害発生状況



※TRIRとは、労働災害の発生状況を評価する指標（100万延べ実労働時間当たりの労働災害の頻度）

2024年度は、不休業災2件、休業災1件が発生しTRIR目標（1.90以下）は、未達となりました。

各種リスクアセスメント実施体制の強化および災害データベースを活用した原因分析と対策などゼロ災害に向けた取り組みを行っています。

安全環境監査

当社グループのレスポンシブル・ケア活動が正しく機能していることを評価するため、国内10事業所、海外3事業所の安全環境監査を実施しました。

監査は、A診断（システム監査）、B診断（現場監査）の2部構成で、安全衛生、保安防災、環境保全、物流安全、化学品安全などの労働安全衛生マネジメントシステムの運用状況を詳細に確認しています。今後も定期的な監査を通じて、安全管理体制の強化に努めます。

【レスポンシブル・ケア活動とは】

化学品を取り扱う企業が、化学品の開発から製造、物流、使用、最終消費を経て廃棄に至るすべての過程において、環境・健康・安全を確保し、その成果を公表する自主活動を指します。この取り組みは、企業の社会的責任（CSR）の重要な要素として、国際的にも高く評価されています。

当社では、①労働安全衛生 ②保安防災 ③環境保全 ④物流安全 ⑤化学品・製品安全 の5つの項目で活動を行っています。これらの活動を通じて、従業員の安全確保、環境保全、製品安全の向上を目指しています。

<システム監査>



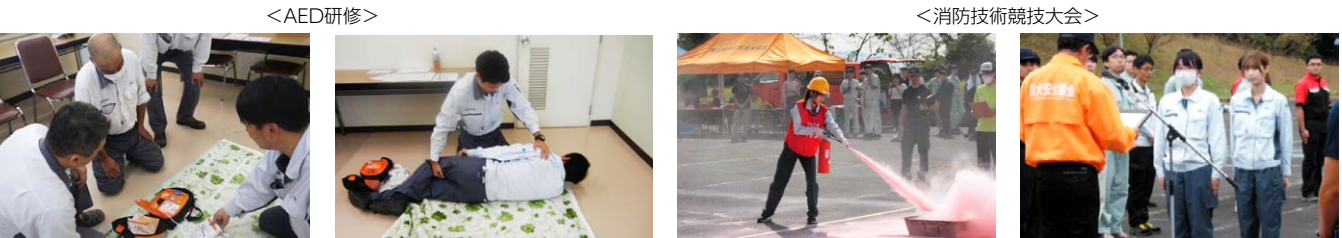
<現場監査>



BCP・保安防災

各事業所では、BCP（事業継続計画）の観点から、様々な防災・緊急対応訓練を計画的に実施し、いかなる時に災害が発生しても被害を最小限にとどめ、速やかな復旧により事業が継続できる体制の整備に努めています。

避難訓練や消防技術競技大会への参加を通じて、従業員一人ひとりの防災意識と対応能力の向上を図っています。



自職場改善活動

当社では改善力アップ研修を実施しており、研修参加者は翌年に自職場改善活動に取り組んでいます。

当社インストラクターの指導のもとQC手法を活用し、製造工程の効率化、エネルギー使用量の削減、データ入力自動化などの改善を実施しました。

改善力アップ研修

- ・データ収集（取り方、まとめ方、標準偏差）
- ・改善活動に役立つ「QC7つ道具」
- ・論理的ものの考え方に役立つ「新QC7つ道具」
- ・改善活動の手順「QCストーリー」

FIS活動

当社では5年、10年後のあるべき姿とのギャップを埋めるための課題を抽出し、チームで問題解決していくFIS活動（Factory Innovation System）に取り組んでいます。

2024年度は、生産性向上、省エネルギー、合理化などをテーマとして活動が行われ、各工場から課題解決に向けた取り組みを発表しました。

<FIS活動発表会>



コーポレートガバナンス

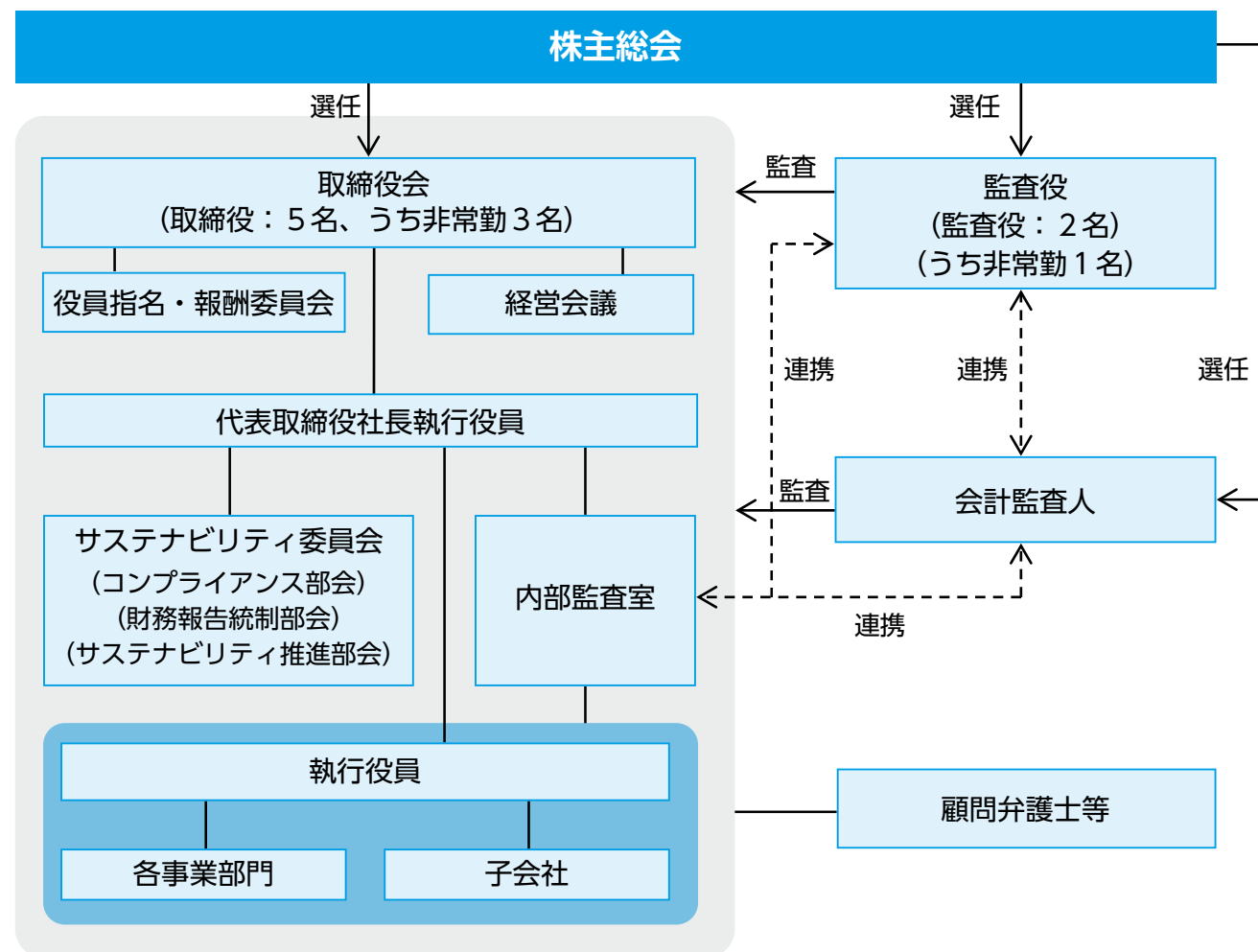
■ コーポレートガバナンスに関する基本的な考え方

CHEMIPAZグループは、「遵法の精神」と「フェアな事業活動」を経営の基本に据えて、経営陣が高い企業倫理を保持しつつ経営の健全性と透明性を確保し、監査役を中心とした経営監視機構を十分に機能させ、企業価値を高めていくことがコーポレートガバナンスの基本と考えています。

コーポレートガバナンスに関する基本的な考え方

1. 株主の権利を尊重し、平等性を確保する
2. 株主をはじめとして様々なステークホルダーの利益を考慮し、適切な協働に努める
3. 会社情報を適時・適切に開示し、透明性を確保する
4. 取締役及び監査役は、株主からの受託責任を認識し、求められる役割・責務を果たす
5. 株主との建設的な対話を行う

■ コーポレートガバナンス体制図（2025年3月31日現在）



コンプライアンス

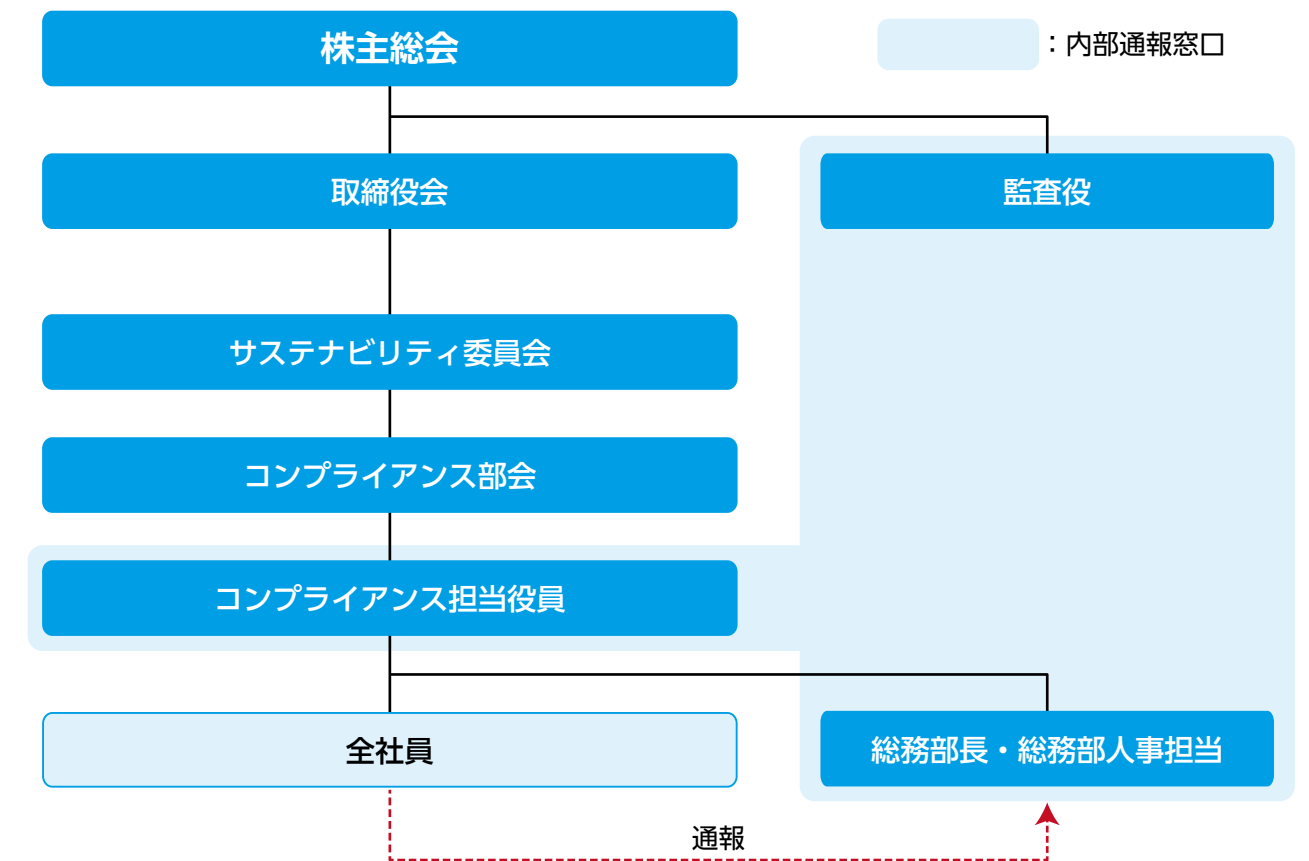
■ コンプライアンス行動規範

CHEMIPAZグループは、「コンプライアンス行動規範」において、当社グループの全ての社員が日常の業務を遂行するにあたって遵守すべき行動規範を定めており、全ての当社グループ社員に説明会を実施し、新入社員には入社時に研修を行っています。

本規範に従った良識と責任ある行動が、CHEMIPAZグループの持続的な成長を支える基礎であることをグループに属する役職員一人一人が認識し、「高い志」を掲げ、公明正大に行動します。

■ コンプライアンス体制

コンプライアンス体制図



■ コンプライアンス推進の取り組み

コンプライアンス意識の向上を目的とした研修を社員の入社時、昇格時あるいはその他研修時に一定の時間を設けて実施しています。また、2024年度にもコンプライアンス行動規範の改定を行い、時代に即した内容に刷新しました。今後も適宜内容の見直しを図ります。

■ 内部通報制度

業務上の情報伝達経路とは独立した複数のルートからなるコンプライアンスに関する通報窓口を設け、コンプライアンス上の問題やその疑義が生じた場合の通報や相談に、速やかに対応できる体制を整備しています。

代表取締役社長・社外取締役座談会 ～変革のプロセスを経て、きらりと光るニッチトッププレイヤーへ～

当社の社長の菅と、株主カーライルにおいて当社の担当責任者であり現在は社外取締役でもある寺阪マネージングディレクターに当社の将来について語っていただきました。

社外取締役
寺阪 令司

代表取締役社長執行役員
菅 正道

社外取締役の立場から見た CHEMIPAZグループの強み

――CHEMIPAZグループは2024年にDICグループから独立し、新たな道を歩み始めましたね。

菅：当社が設立された1968年以降2024年1月まで親会社であったDIC(株)からは、50年以上にわたって様々な支援をいただきまして、今でも大変感謝しています。一方で数年前から、DIC(株)の戦略と、当社が目指す方向性が必ずしも一致しない局面も出てきたため、2022年末頃に両社で協議して、当社が資本独立の道を検討することに合意しました。

寺阪：実は私たちカーライルは、2010年代の初めころから旧星光PMC株式会社と、親子上場の課題や成長戦略などを含め、色々なお話し合いをさせていただいておりました。そこに2022年末のタイミングで資本構成変更の話が具体化したため、私たちが提供できるご支援の方策の検討を本格化させました。その過程で、CHEMIPAZグループのことを知れば知るほど、面白い会社だな、とより強く感じるようになりました。国内での製紙用薬品における圧倒的な強さに加え、化成品などそれ以外の事業もグローバル展開を更に拡大するポテンシャルを併せ持っているのを改めて認識し、バランスの良い事業ポートフォリオを作ってこられたことを感じました。

――実際に社外取締役として運営に携わるようになってから、その印象は変わりましたか？

寺阪：出資前よりも一層、CHEMIPAZグループの製品やサービスが、世の中の「縁の下の力持ち」になっていることを実感するようになりました。ダンボール、ティッシュペーパー、スマホの画面、コンタクトレンズ、化粧品など、様々な分野で当社グループの製品が使われており、人々の生活を快

適にするために不可欠な存在となっています。

一方、社員の方々にはそれが当たり前と思っている方もいらっしゃると思います。自社の製品がいかに素晴らしい、どれくらい社会に貢献しているか、ということを改めて認識・実感することで、会社に対する誇りをより強く持てるのではと感じました。

菅：確かに社員のエンゲージメント向上のためにも、自社の製品が社会の中でどう貢献しているのかを実感・共有することは有効だと思います。そのような機会をどんどん増やしていきたいと思っています。

「よき相談相手」でもある関係

――お二人は、実際にはどのように協力関係を作っていっているのでしょうか。

菅：出資を受ける前から将来のビジョンについて密に議論を重ねてきました。2024年1月の資本構成の変更後は、より本格的に、カーライルから4名の社外取締役・社外監査役を迎え入れ、取締役会だけでなく重要なテーマ・課題ごとにカーライルの方々と社内の関係当事者で深く議論する場を設けています。そこで最終的な判断に際しての外部的な目線を交えた多くの有益な気づきを得ています。

寺阪：投資先の自律的な判断を重んじながら、その判断に有益な材料提供や支援を惜しまないというのはカーライルの投資先に対する一貫した哲学です。私たちの存在は投資先の会社にとって永遠ではなく、運営に携わる期間は平均すると5年程度です。その間に、投資先の会社が自律的・永続的に成長するための事業基盤をしっかりと創り、再上場など次の発展段階へ進むためのお手伝いをするのが使命と思っています。そのために、会社が自ら描いた将来の姿を自律

的に実現させていく経営を後押しするというスタンスで常に関わっています。



社外取締役 寺阪 令司

東大法学部卒。大蔵省でキャリアをスタートした後、2003年よりカーライルに10年間在籍。民間企業経験後、2020年よりカーライルに復帰し、マネージングディレクターおよび投資先の非常勤取締役を兼務。

いいものを、より良くするための変革

――カーライルの資本参加以降、どんな支援を実際に受けてきたのでしょうか。

菅：まず当社のグローバル展開を含めた事業拡大のためのサポートですね。カーライルは全世界にネットワークがありますから、当社の潜在的なお客様や、様々な事業上の提携候補先などを紹介して貰っています。また人材強化の面でも、恐らくこれまでの当社グループでは巡り合えなかった人材の紹介を受けた結果、経営体制を強化できたと感じています。

寺阪：一般的にP E ファンドは、「外部から人を送り込んで経営改革をする」とイメージされることが多いと思います。しかし、カーライルは人材の紹介のサポートはしますが、採用はあくまでも会社の意思・判断で行ってもらっています。また、今回入社された方々は皆、あくまでCHEMIPAZグループの成長性や変革の意思に魅力を感じて入社された方々です。私たちがやりたいことは「いいものをより良くするための組織の変革」のお手伝いです。同質性が高い業界の中で、異なるスキルや経験を持った人材が入社して、同じ目的に向かって協働することで、暗黙の了解だった事柄も言語化する必要が生じ、様々な意見を戦わせる中で新しいアイデアが生まれるというダイバーシティの効果が発現することを期待しています。

菅：組織立てについても問題提起を受けて、昨年10月に、組織のサイロを無くして事業間のシナジーを出すために、複数の事業とグループ会社を2つのビジネスユニットに再編しました。またグローバル展開に向けた様々な支援や非連続的な成長に向けたM&Aなどについても、色々とアイデアをいただいています。今年はその効果が表れる年として楽しみです。

中長期的な企業価値向上に向けて

――中長期的な企業価値向上について、どのようにお考えでしょうか。

寺阪：マーケットの動きをしっかりと見ることが大切だと思います。世の中のお役に立てるものを常に創り出していかねばなりません。不断の見直しを繰り返して行く中で、どうしても競争力を失ってしまう製品や事業もあるでしょう。そこにはしっかりと向き合っていく必要があります。

菅：同時に、将来どこを目指しているのか、といったことを、社員も含めたステークホルダーにわかりやすいストーリーとして伝えていくことも重要と思います。環境貢献も引き続き重視していきたいですね。私たちの製品は、例えば製紙用薬品は、紙という環境素材を有効活用するものであり、その使用が環境負荷の低減にも貢献しています。現在展開している事業自体が、直接的・間接的に環境に貢献しているという自負があります。



寺阪：また、先ほども申し上げたダイバーシティ推進も重要な要素です。キャリアや経験の多様性だけでなく、女性の活躍推進も重要です。グローバル企業になっていく過程で外国籍社員も増えていくでしょう。多様性を楽しみながら包含する組織になっていけるといいですね。

繰り返しになりますが、CHEMIPAZグループは、安定性と成長性を兼ね備えたきらりと輝くニッチトッププレイヤーです。変革のプロセスを経て、よりワクワク感や躍動感のある成長性の高い会社になっていくと信じています。今後入社される方にとっても、様々な場で活躍の可能性がある、面白い会社だと思います。

菅：私たちのグループは、所帯は大きくありませんが、だからこそ社員が、自身の役割やキャリアの可能性を広げていける可能性は高いと思っています。変化と成長に向けてパッションを持って取り組んでいる人も多く、自分自身が変化の担い手になれる良いタイミングでもあると思います。そういった方と一緒に、事業をより強く大きく成長させていきたいですね。